丹鶴叢書

蒙古襲來繪詞 下

093.1
2006
佛教大学図書館
2005494933

蒙古襲来繪詞 下

同五日関東乃使つひかうまれ五帝とをうしおむいうまれ
左衛門三郎をけるる拂暁ふませそうりもに季長ゆきもむて
御ふねをるそてらあひふ称いたる事ふる拂大事ふる拂のめて
おかえかと申ふかうまれ乃五帝無私いそていちうまるまきれる
ふそうへと申ところに肥前國の住家人其名ゆをるまそう
まれにて乃浦ううれのそちいふねる賊徒あまうまこんのう
ゆをはふひの音てもるへき地もゆおほえ乃せくまやや
に音ふちいふ申に季長れ汗せのふくまうひの音いそ

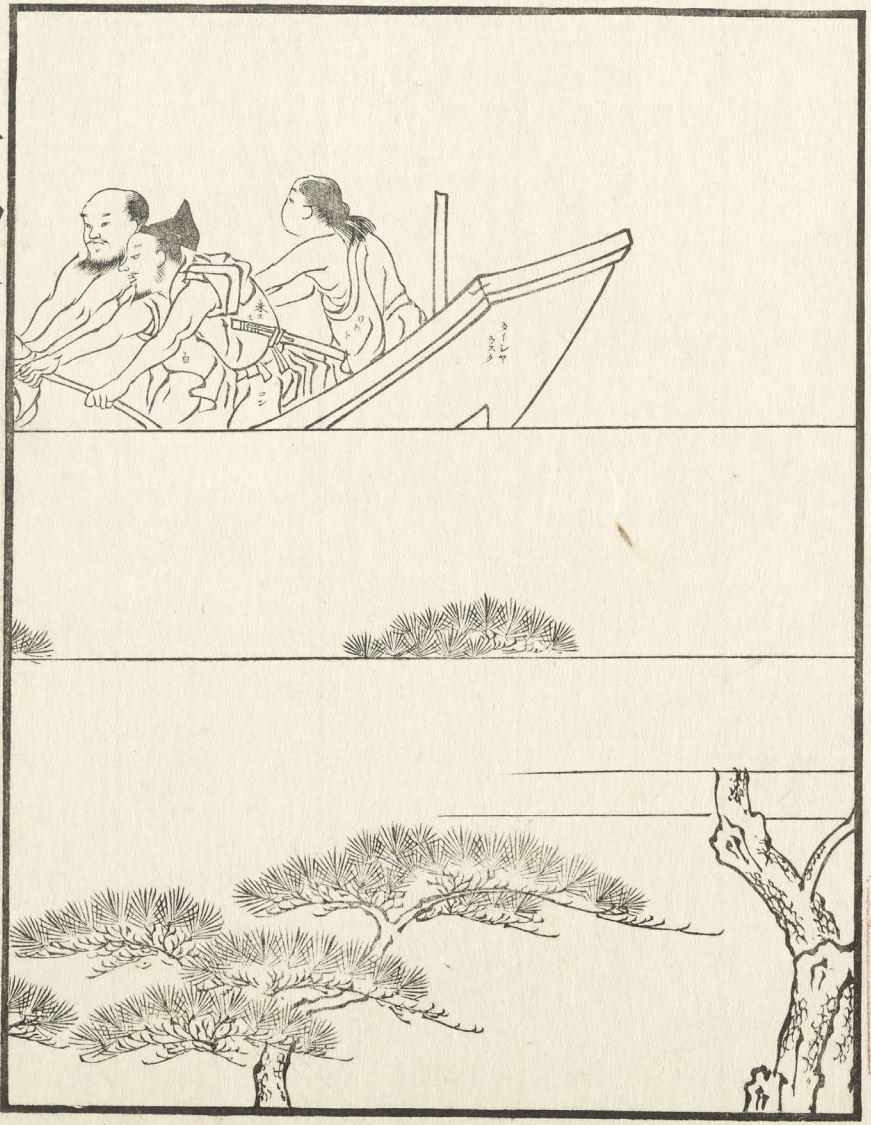
㊥篤尚堂㊦

歩兵をおほえいふねふの世くハよりものふく當ハ論こ捨を
一人も宇地ころめきくこ我ゆ〻を申にかくこの立郎こ銭
そやふけのこわゆく申るせいをさ〻むこ宇ましたくゆく小武後
へ申へ〻とて使者を佐ろそもに肥後國まくま乃別當
沢郎對して大野小沢郎くまさうその沢う兵船ましはこう
人くをひかるとも〻て雪長う兵船ハまくましはこう佐ろ祖
ふせんそまをうーまひもこころ連銭乃猛そそる大船
をこさそこ緑かくこ五郎城沢郎後の猛こお沢ゆる
ひむくひくえそて使をつそ〻このふねふのかてねさの
まねふのくむこまくをきて佐ろハのも移ふのくむこをーに

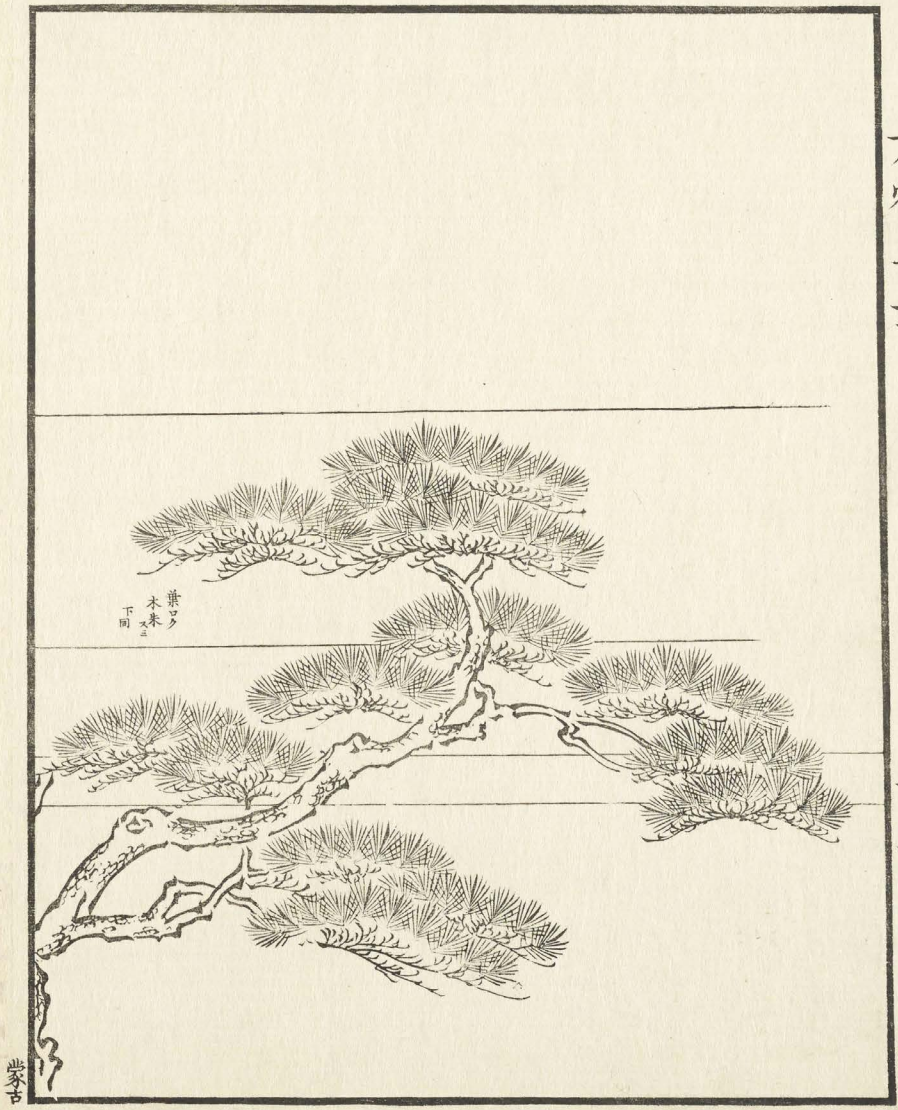
蒙古

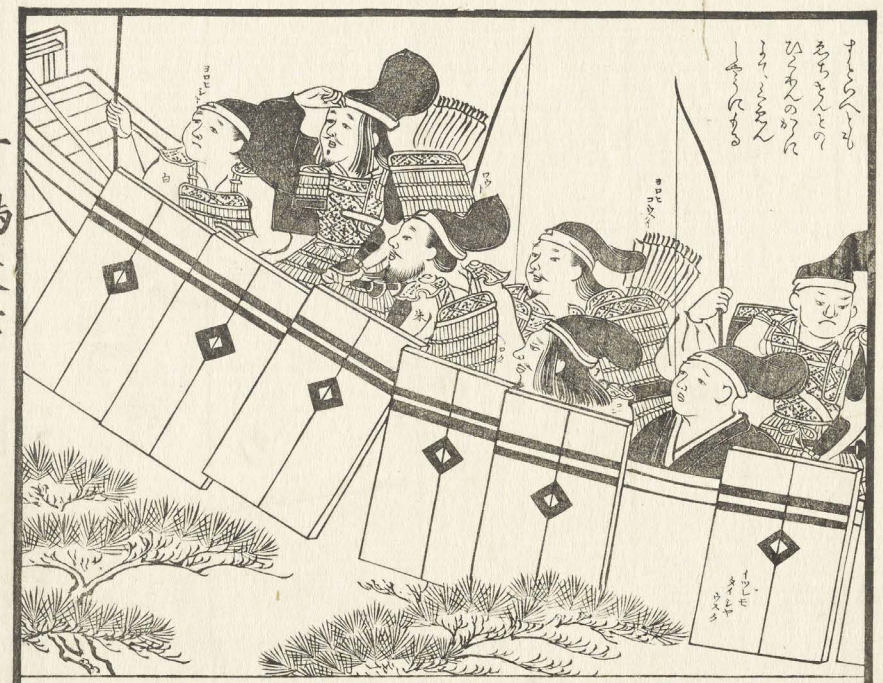
のをさこをもて守護の御ての抱ふハ御兵船まそうりて
乃こて合戦をーと私沢せ緑かくゆく申ふのせう移て
ねさのまねふのこう佐ろふこころの兵部房そう乃御ふねふ
ろ佐ての人こう沢ろハのこまーくろれいーせこ申て志
ろくをもてせさねろさむこそる緑
君の佐大事ふおきそうそむまあふまろこのこうをむまる
くうろふせこさいれく移ゆそむまこそのせむなくいは一船
をおてまろこそもむこ申ふれろくこさーれ沢をそうろる
うろそ狼籍あせそと申ふ地ともものこそーひふふかの姫
移ふれ新

中 篤尚堂 金



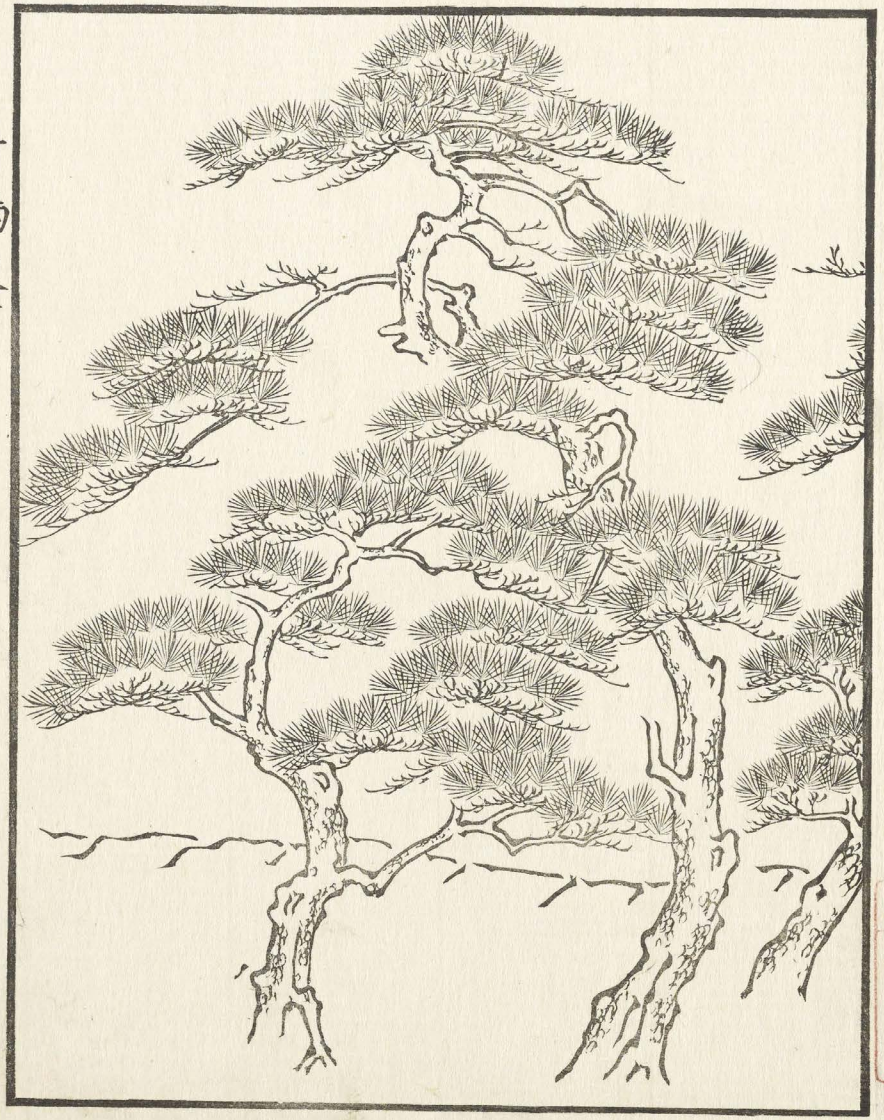
中 篤尚堂 金



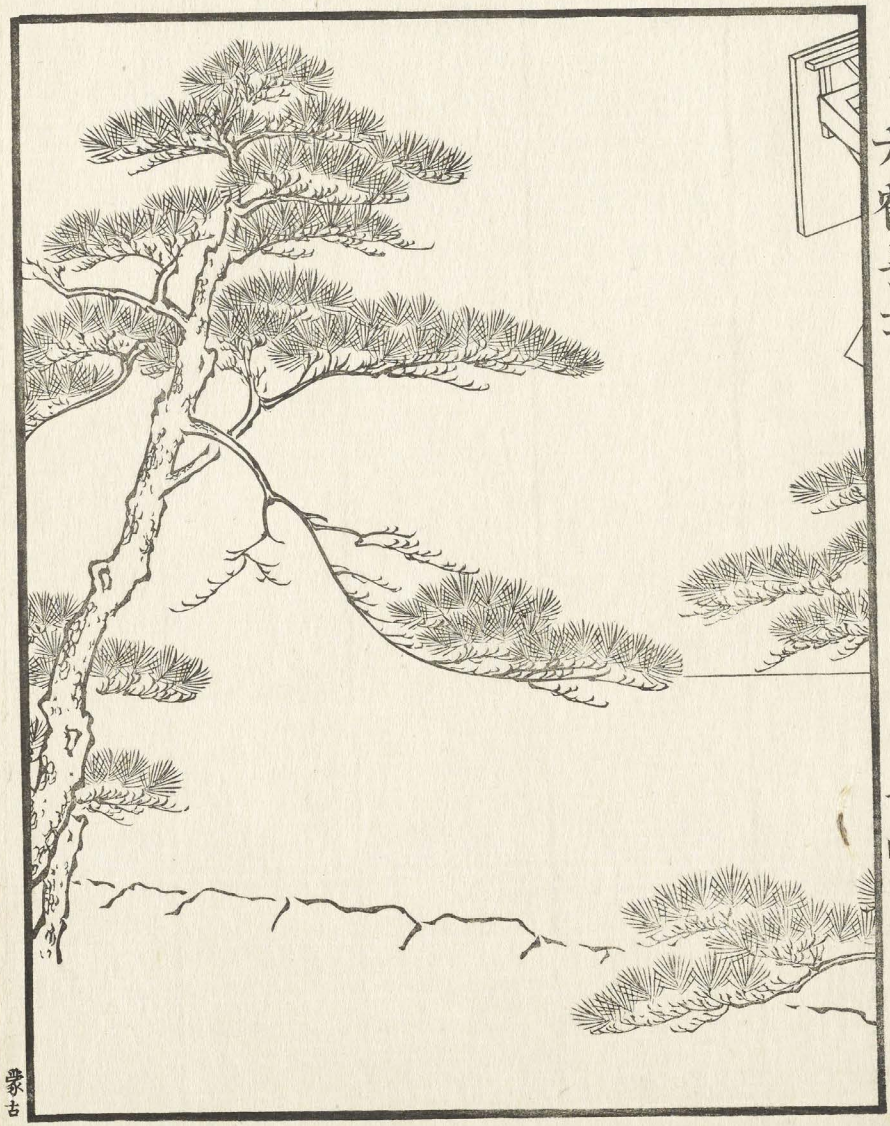


中 篤尚堂 金

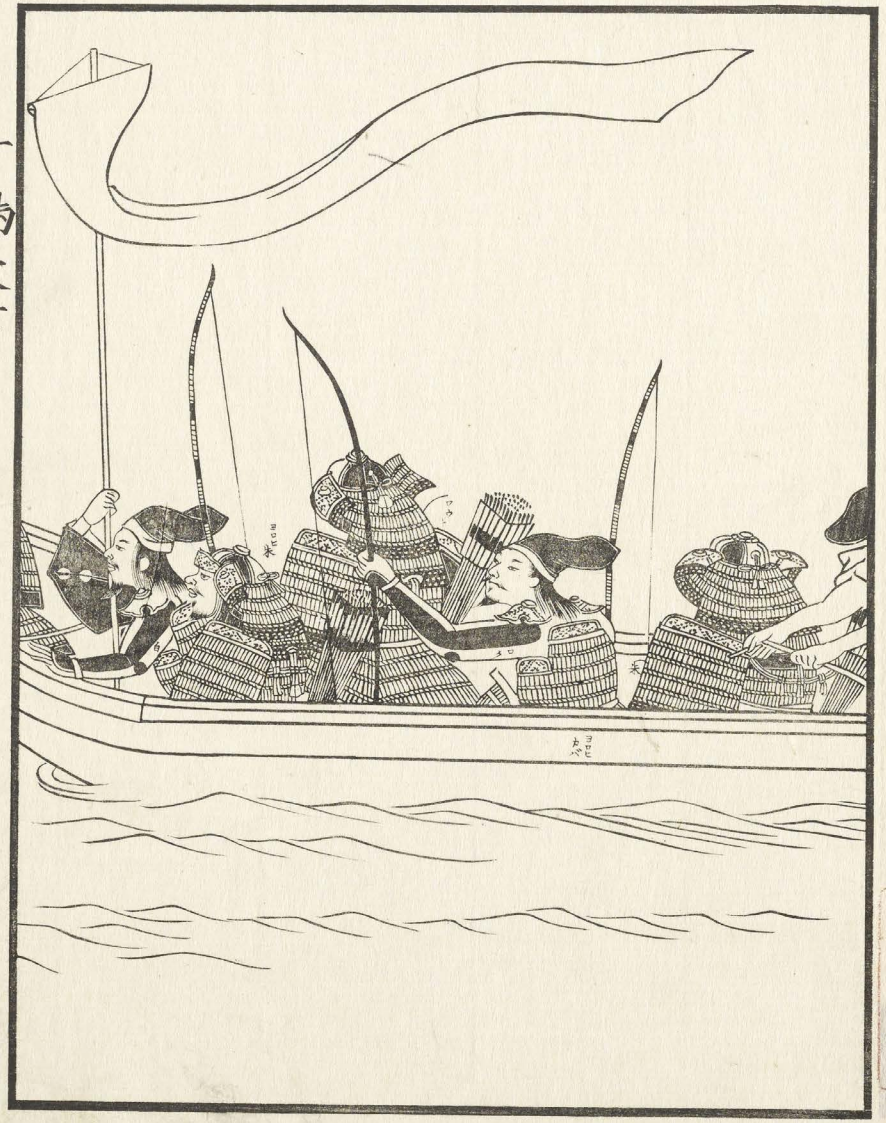




中篤尚堂金



蒙古



中篤尚堂 水



蒙古



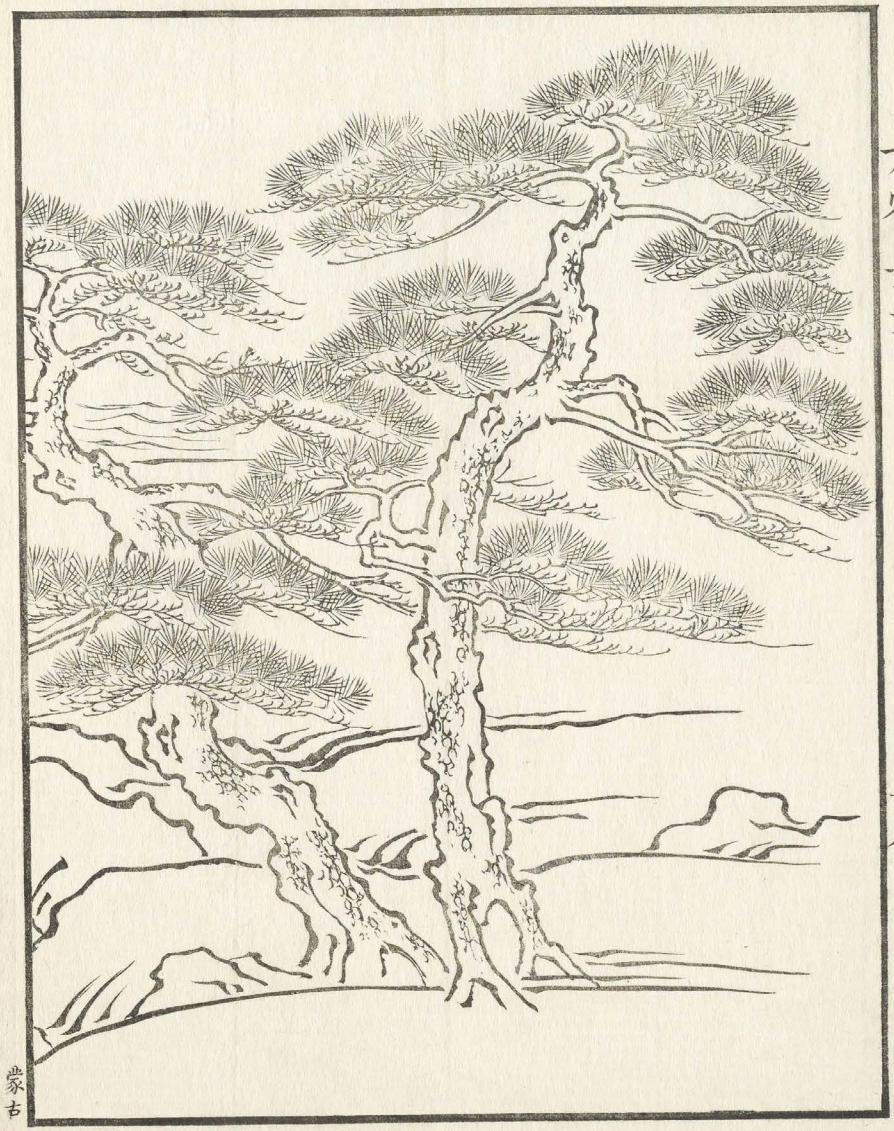
中 篤尚堂 水

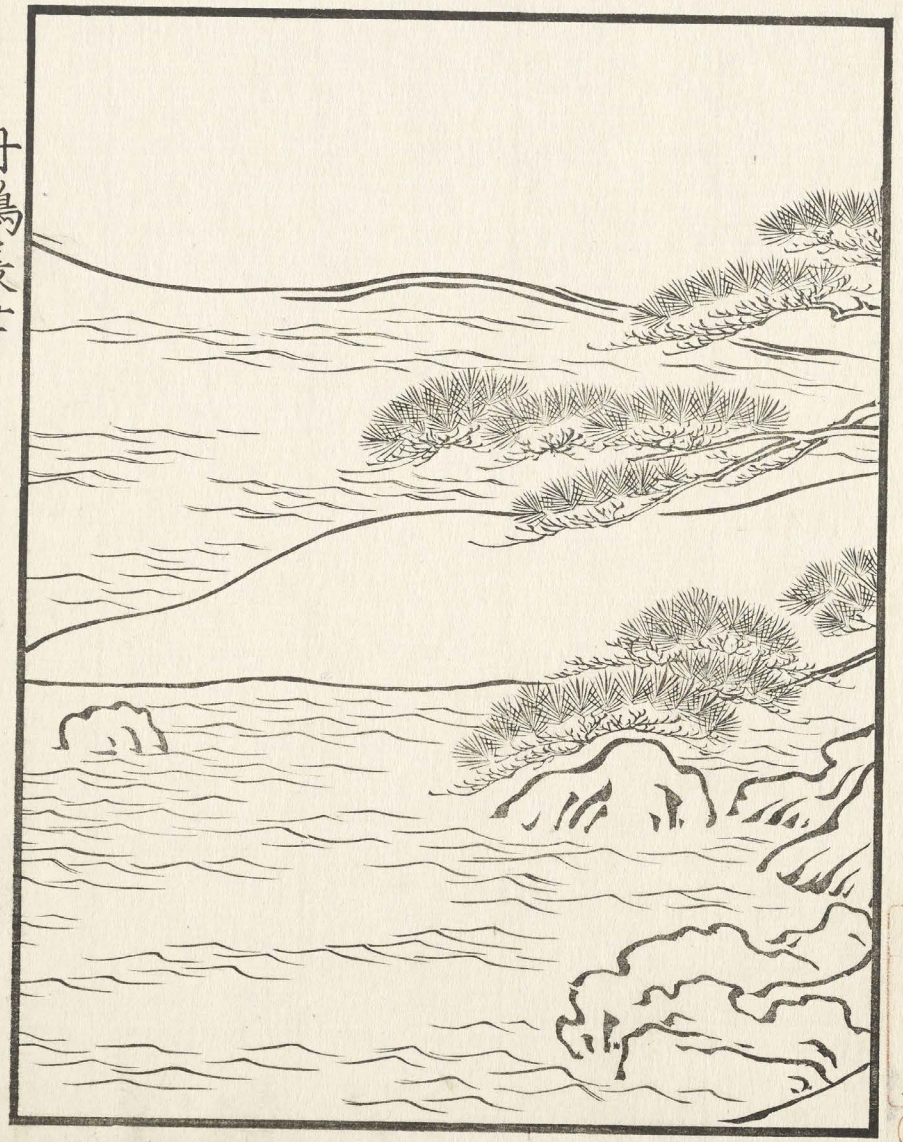




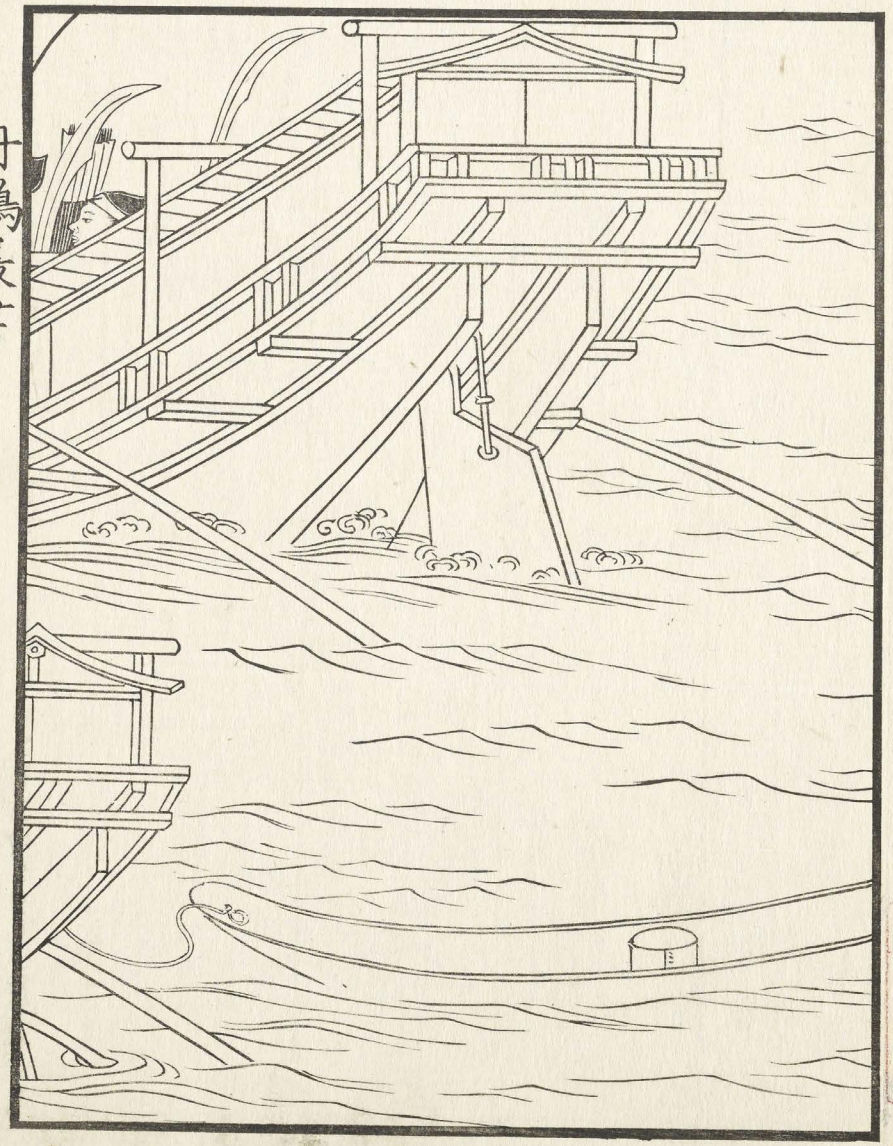


中 篤尚堂 金

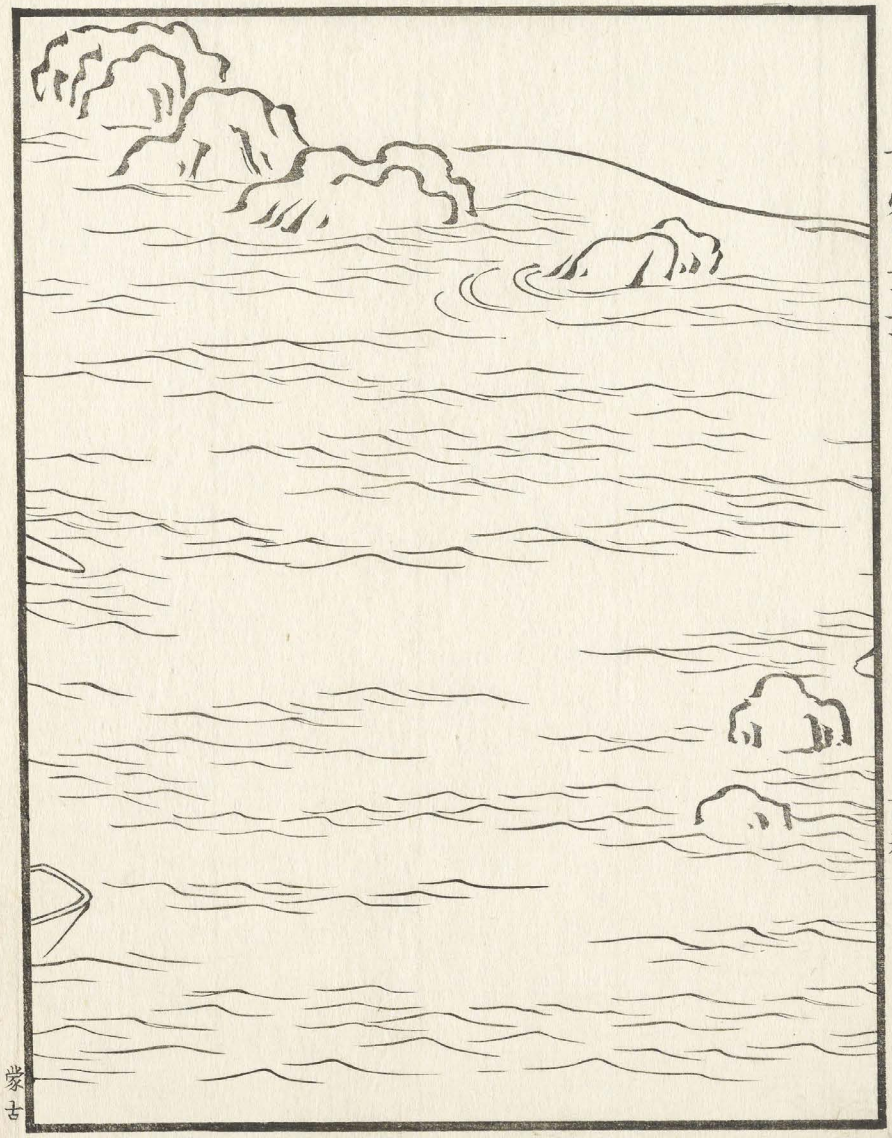




申篤尚堂金



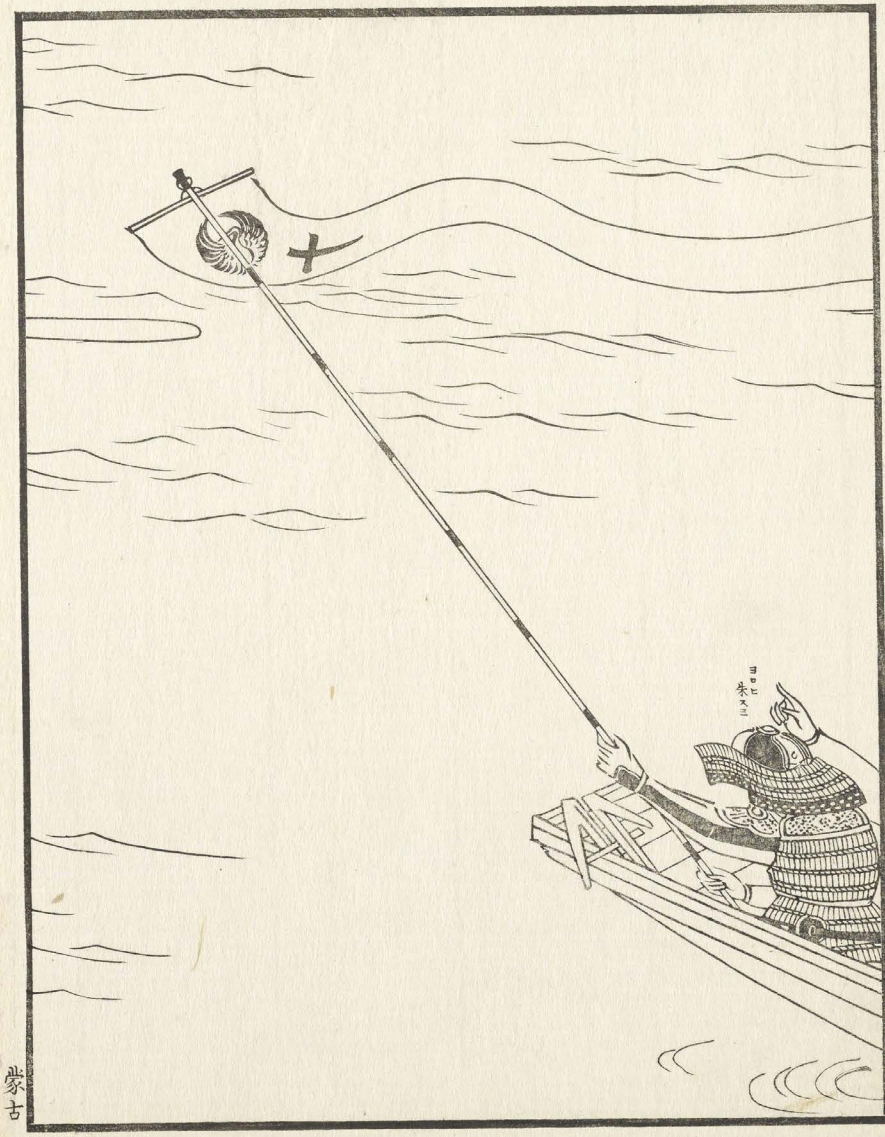
中篤尚堂水







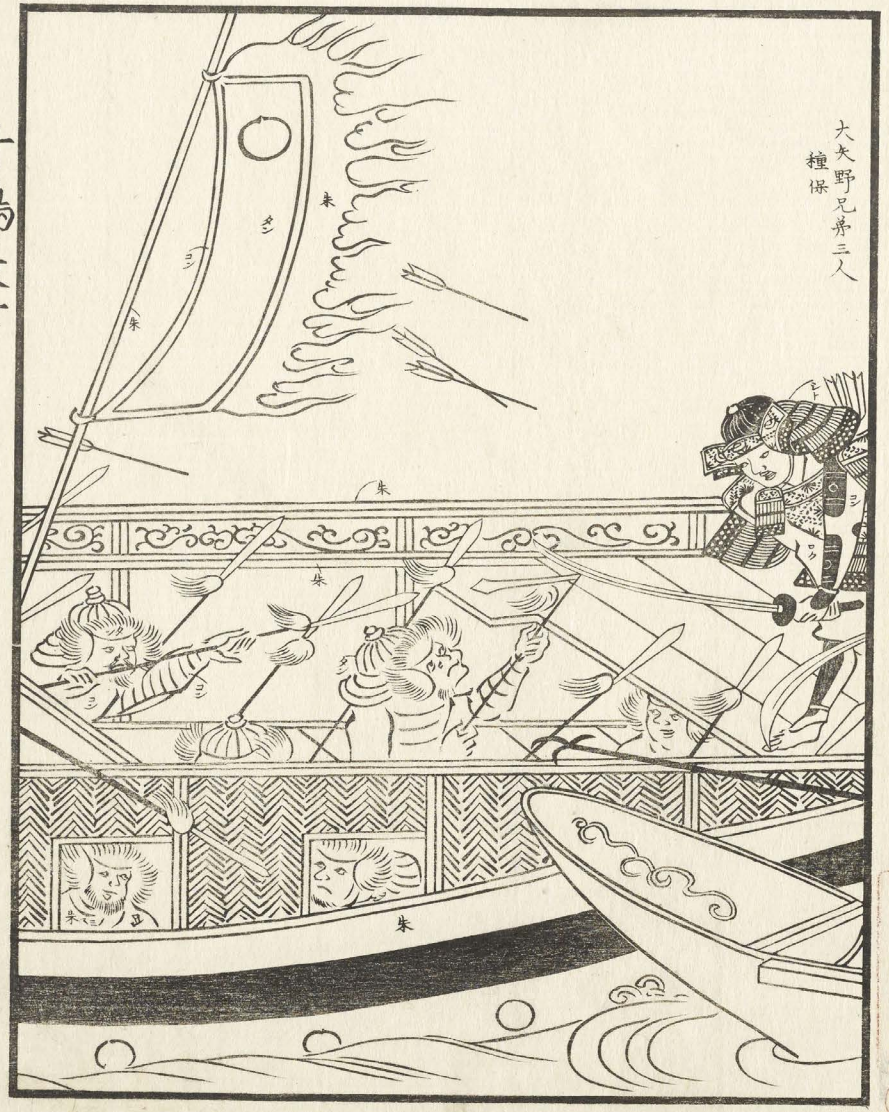
甲篤尚堂 水



蒙古

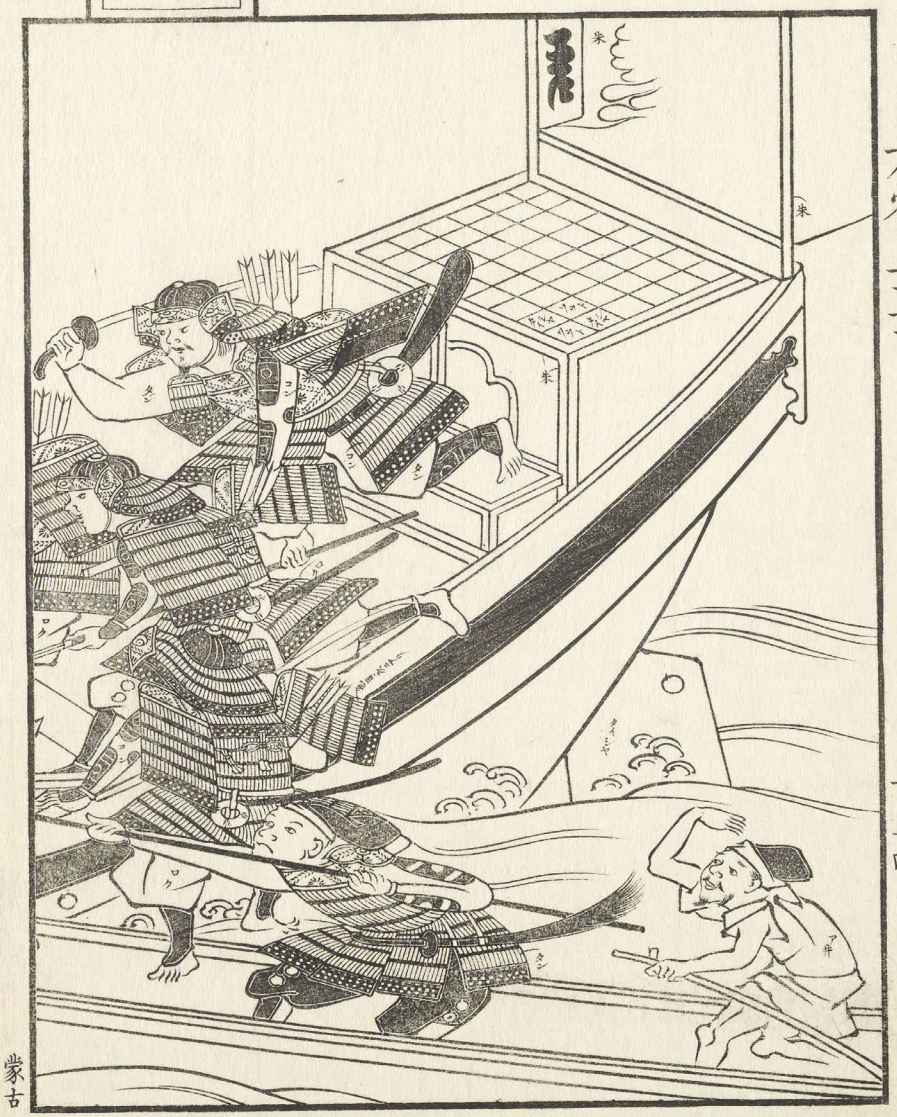
中 篤尚堂 水

中篤尚堂藏

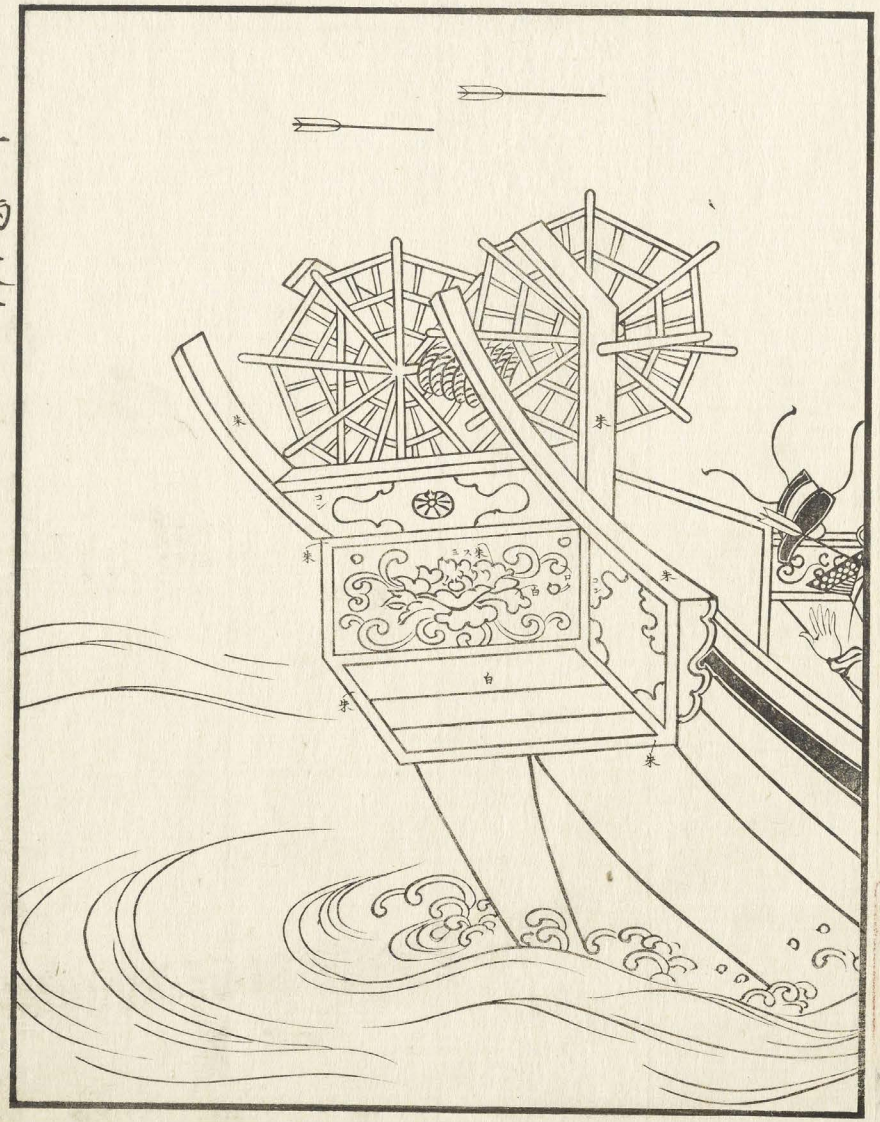


大矢野兄弟三人
種保

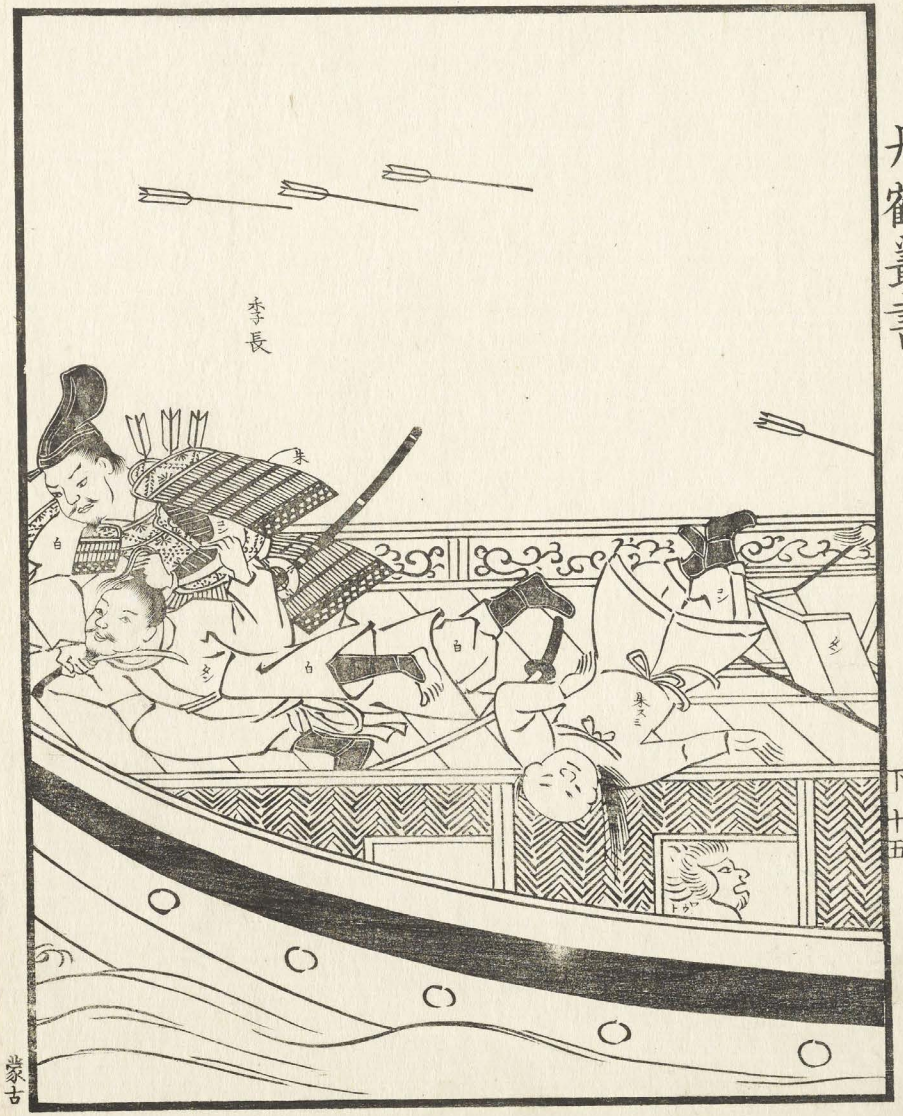
中 篤尚堂 金



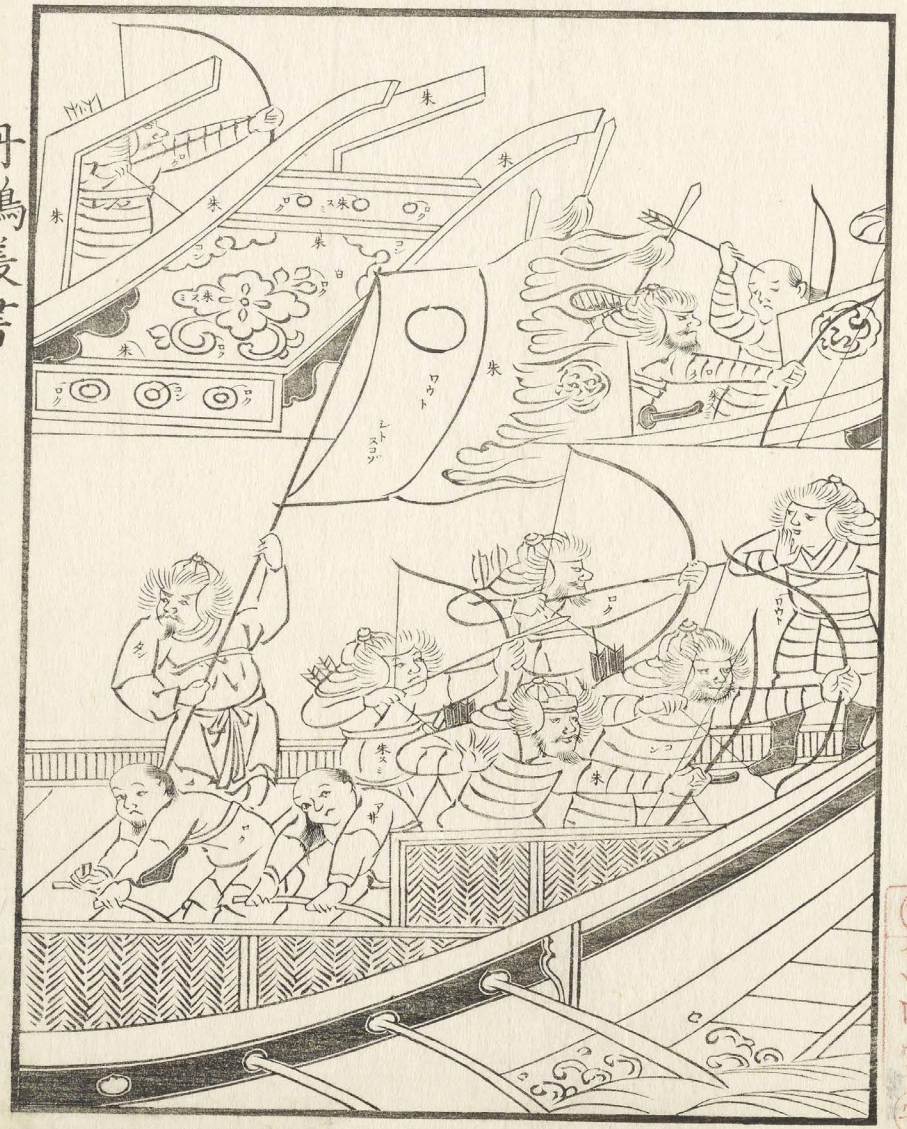
蒙古



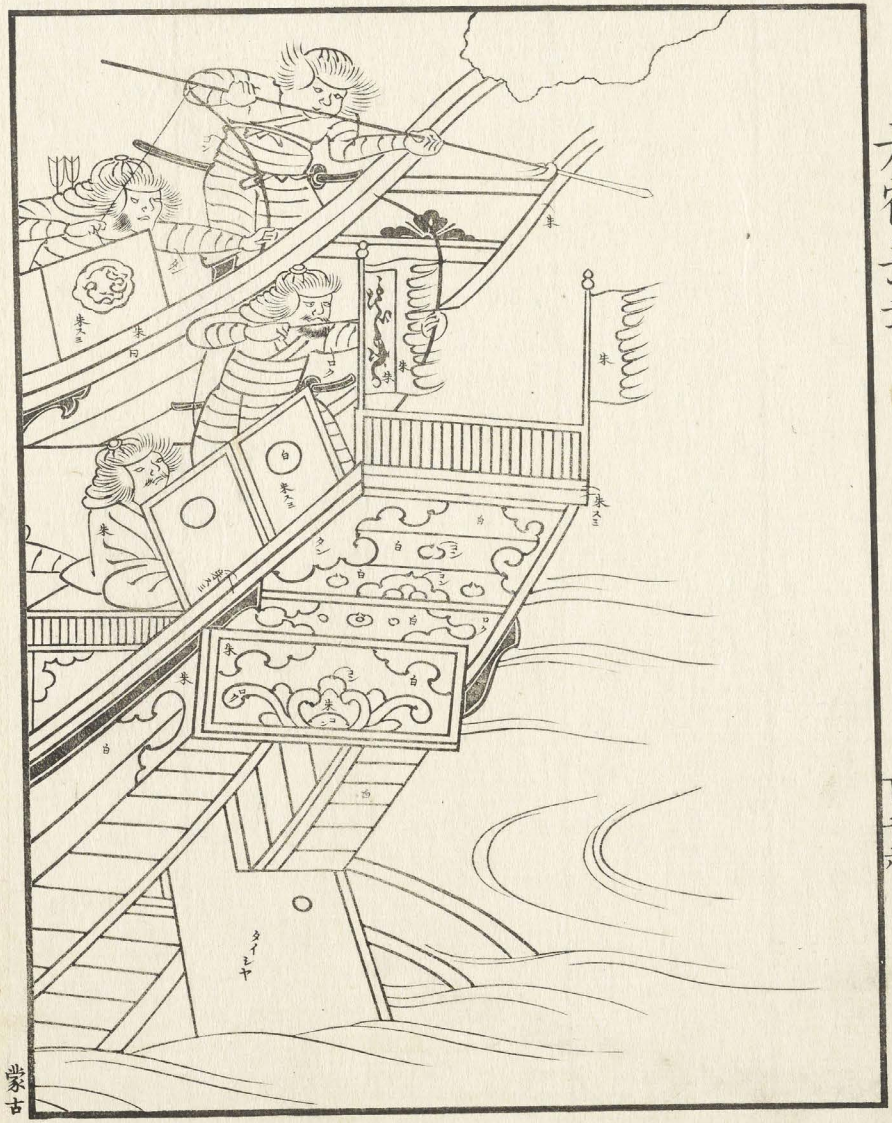
中篤尚堂龍



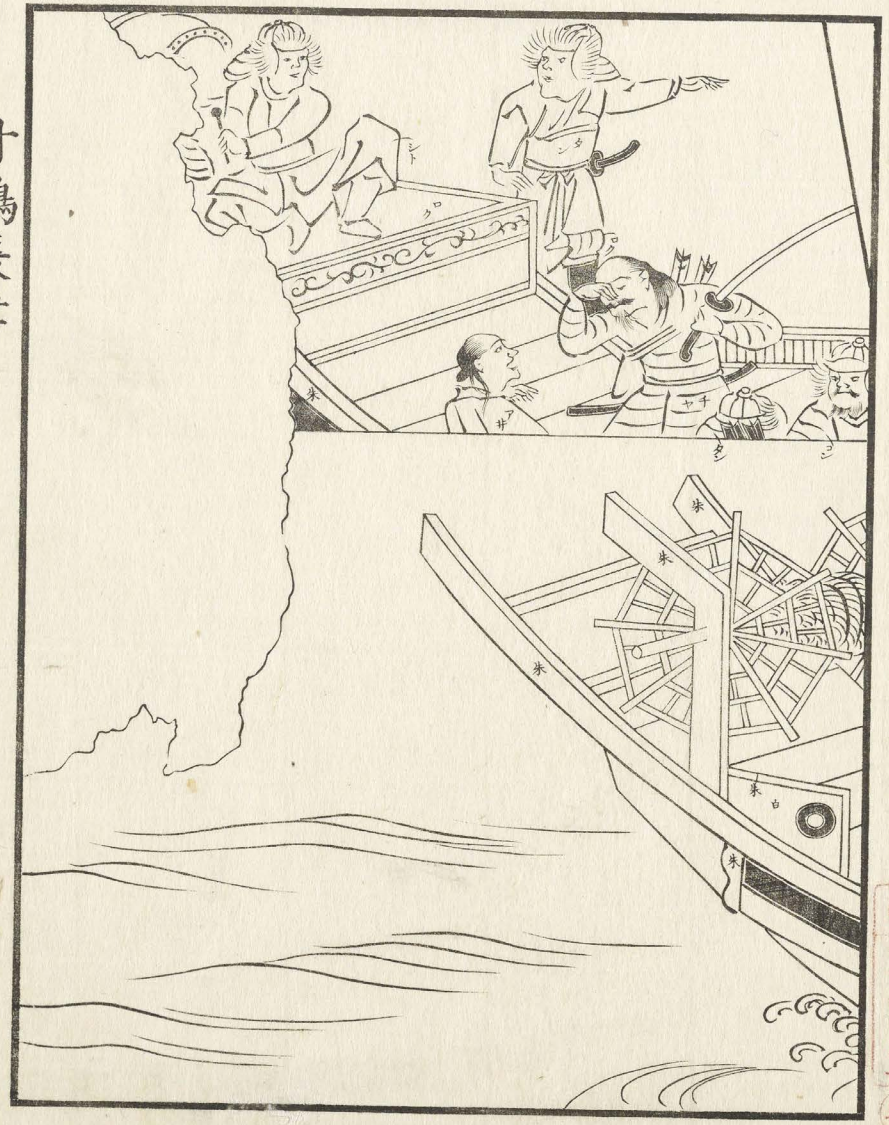
蒙古



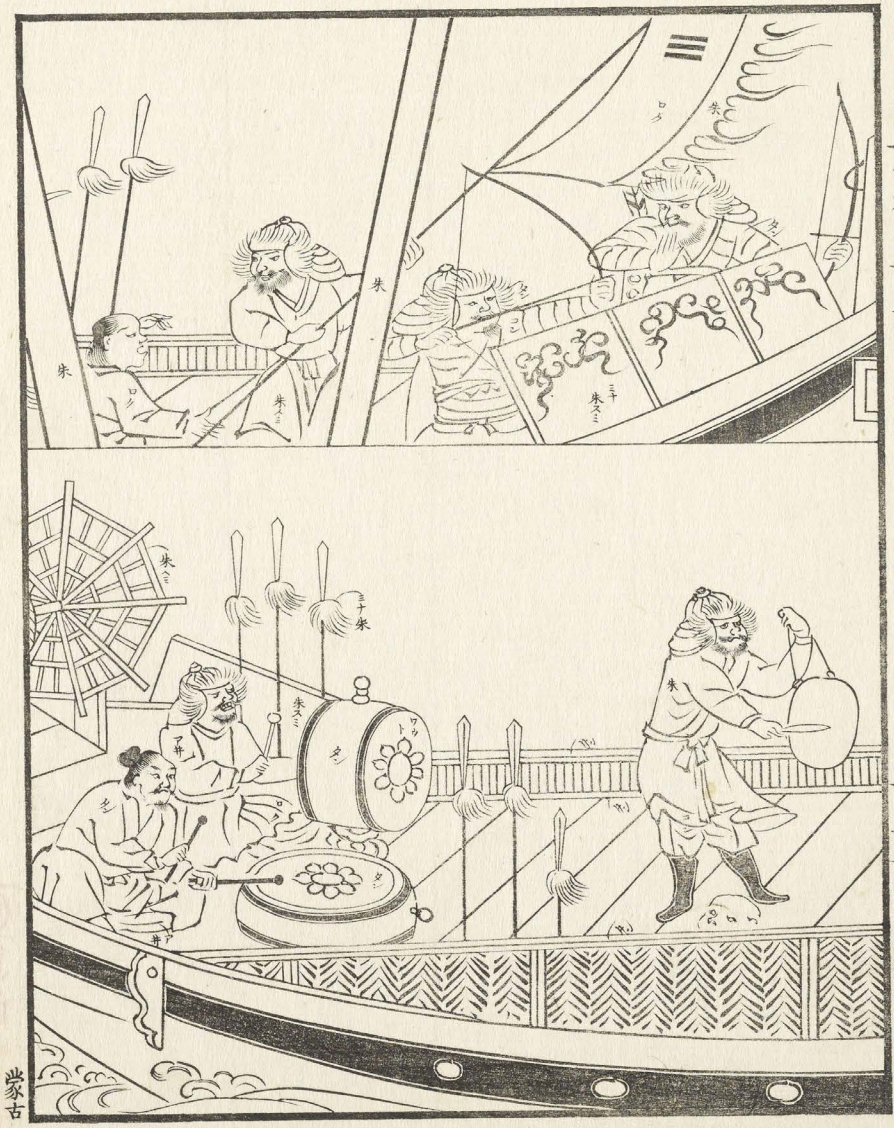
中篤尚堂安



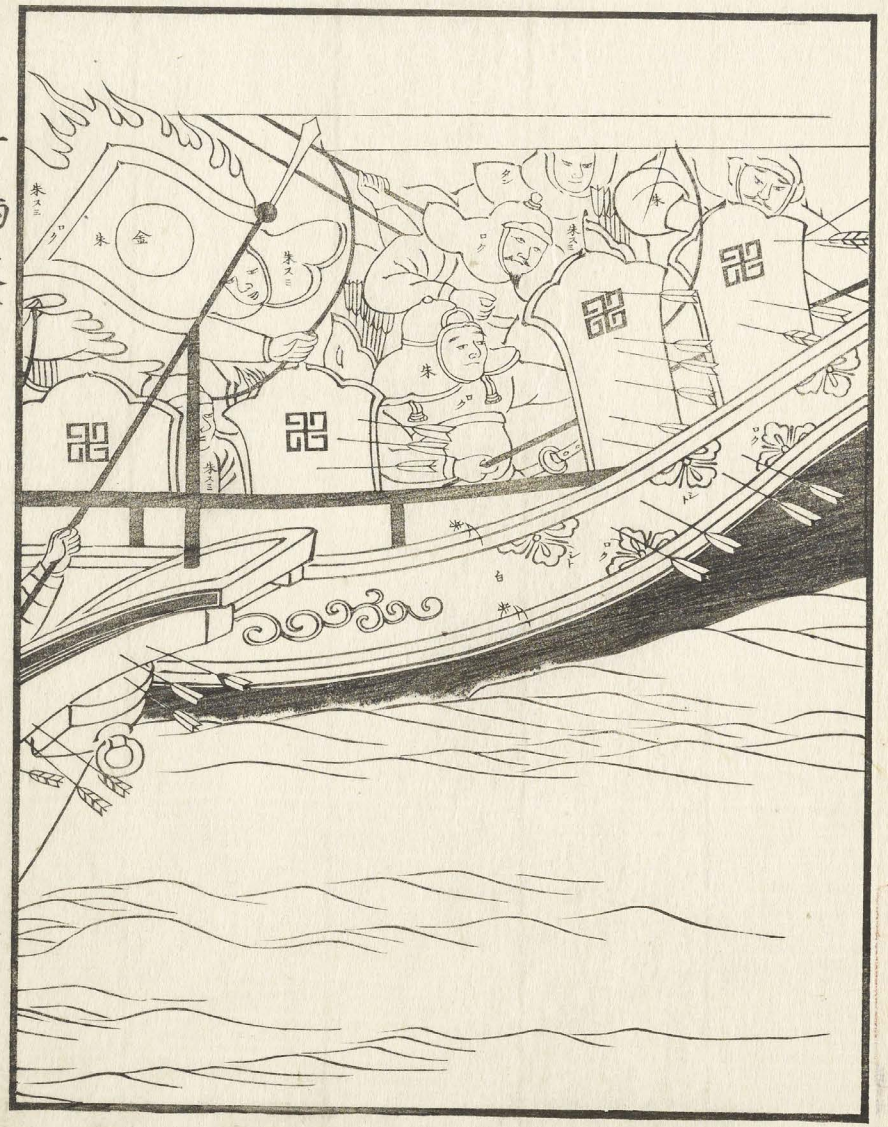
蒙古



申篤尚堂安

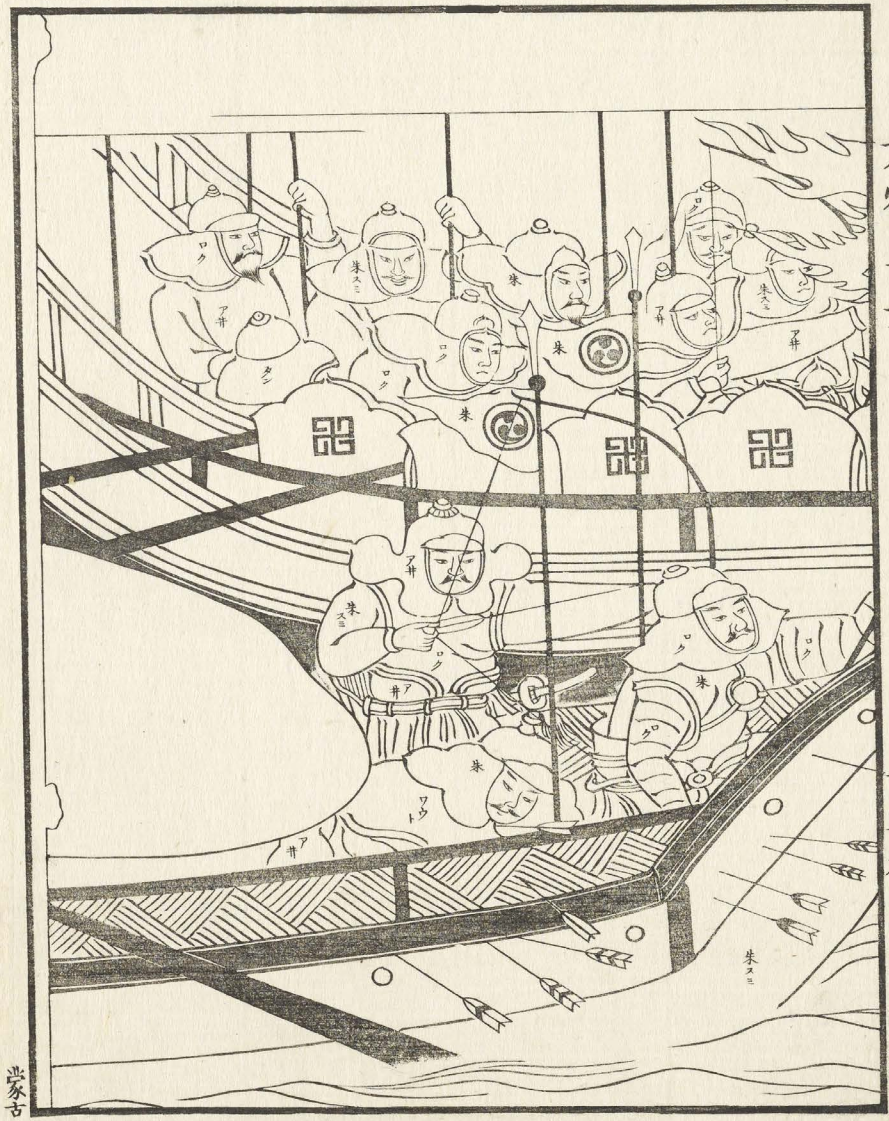


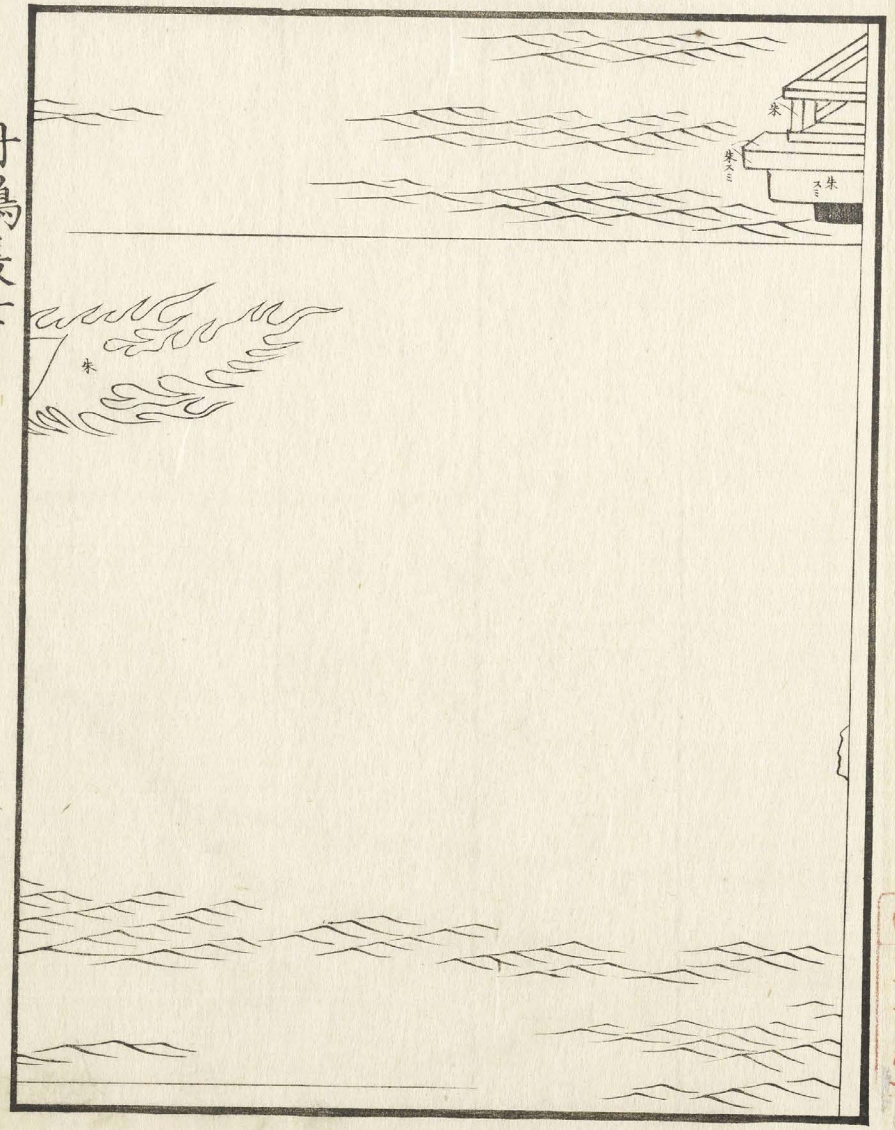
紫家古



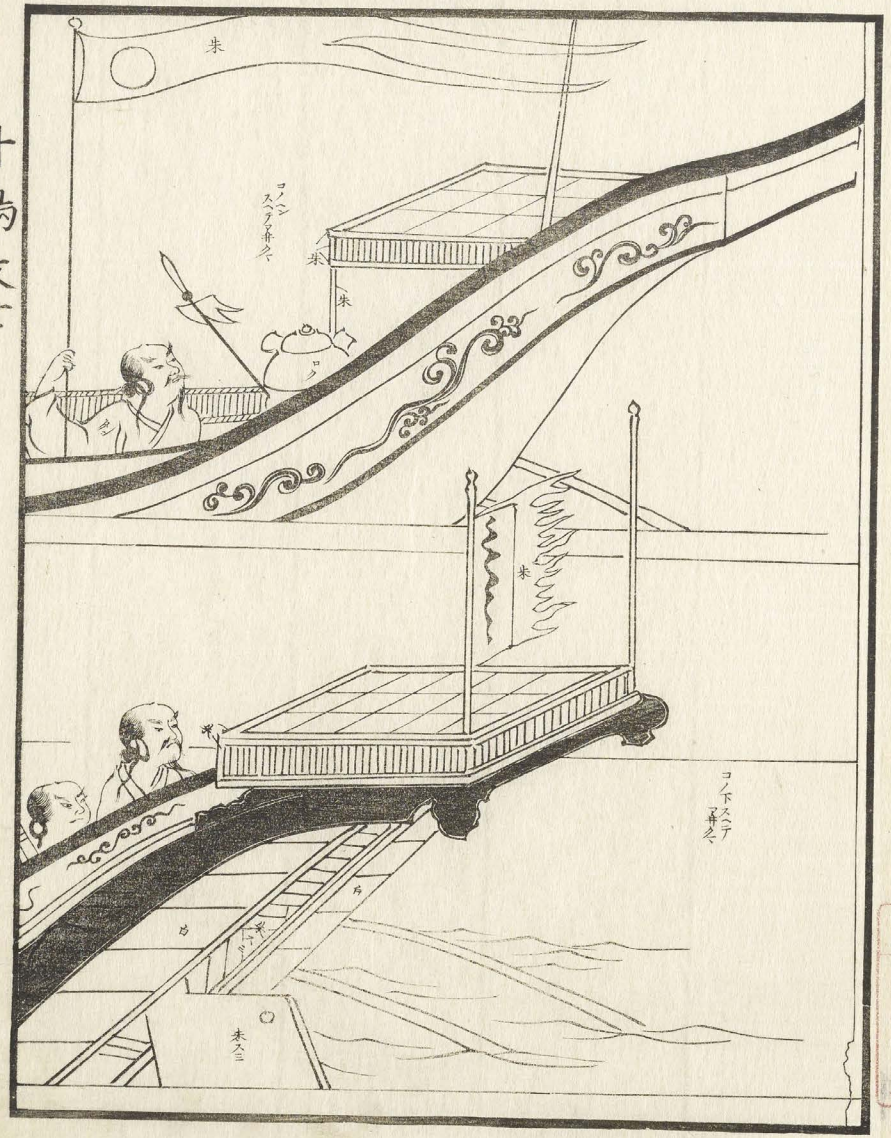
中篤尚堂藏





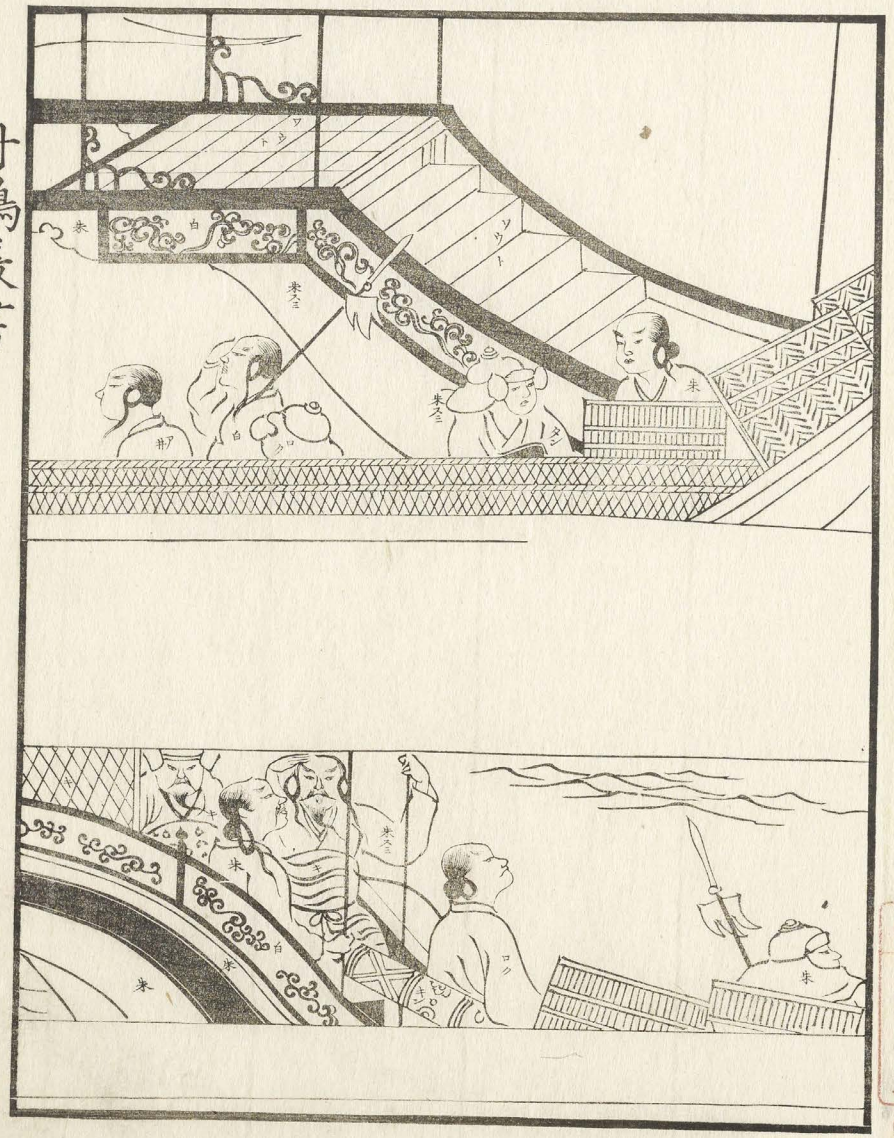


中篤尚堂藏

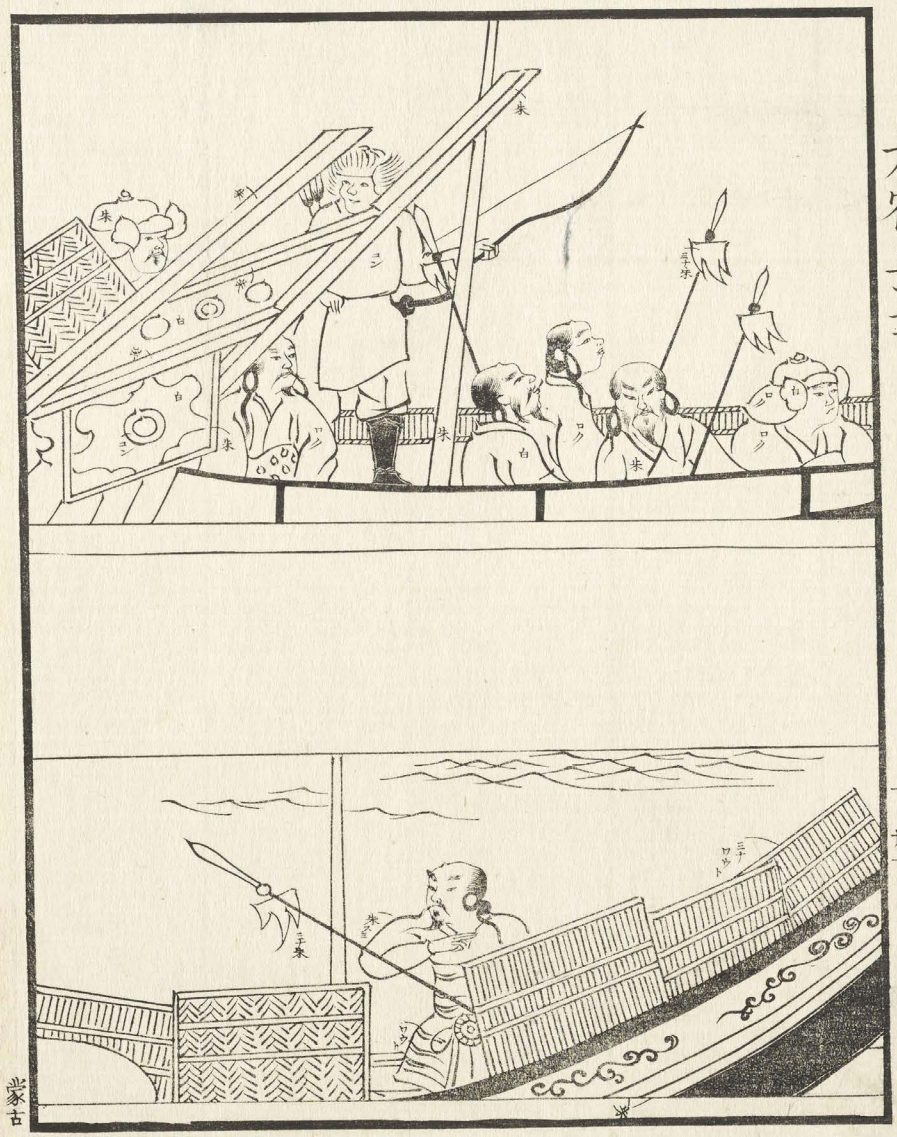


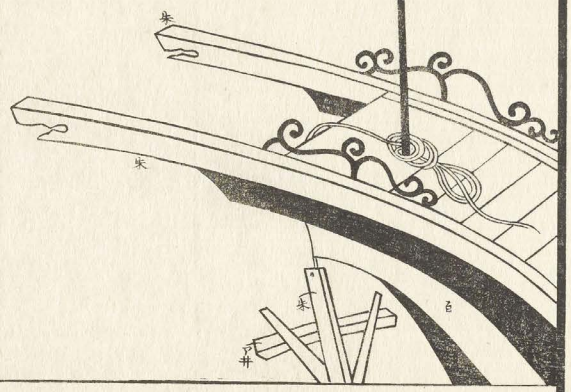
中篤尚堂安



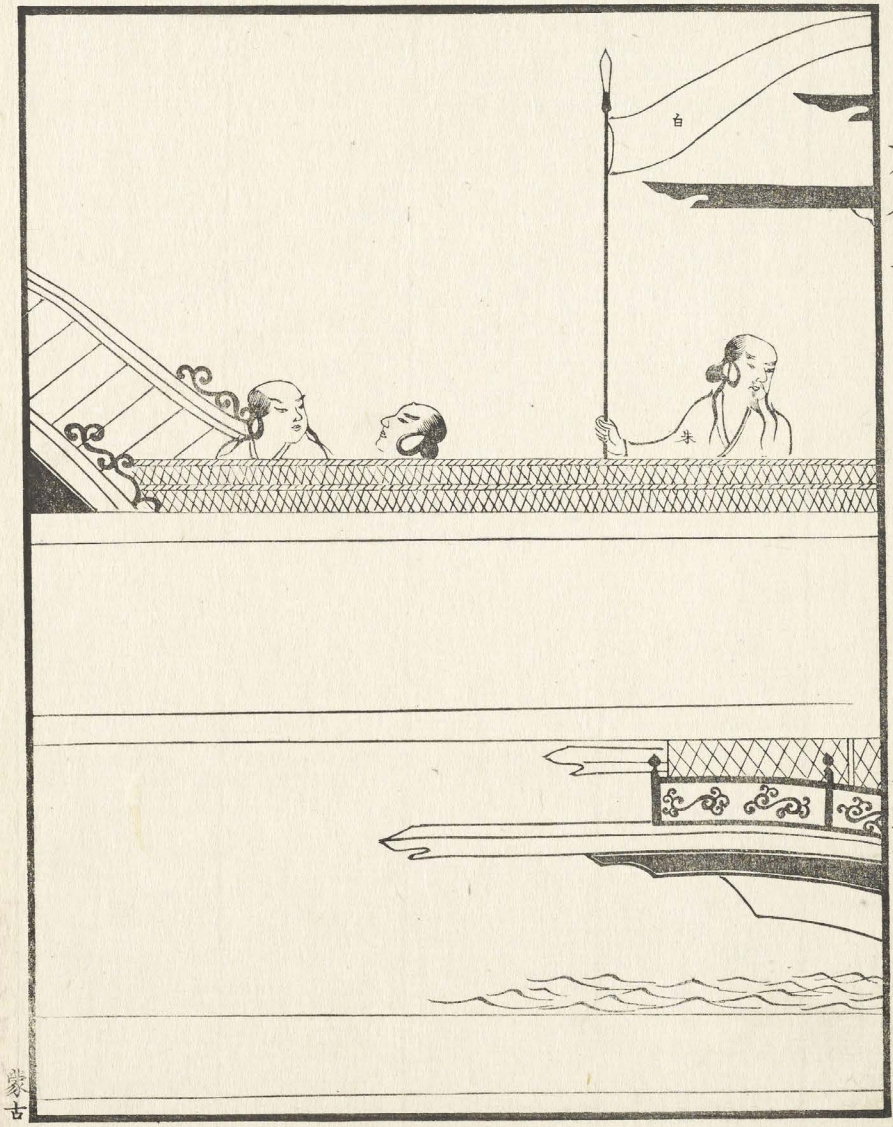


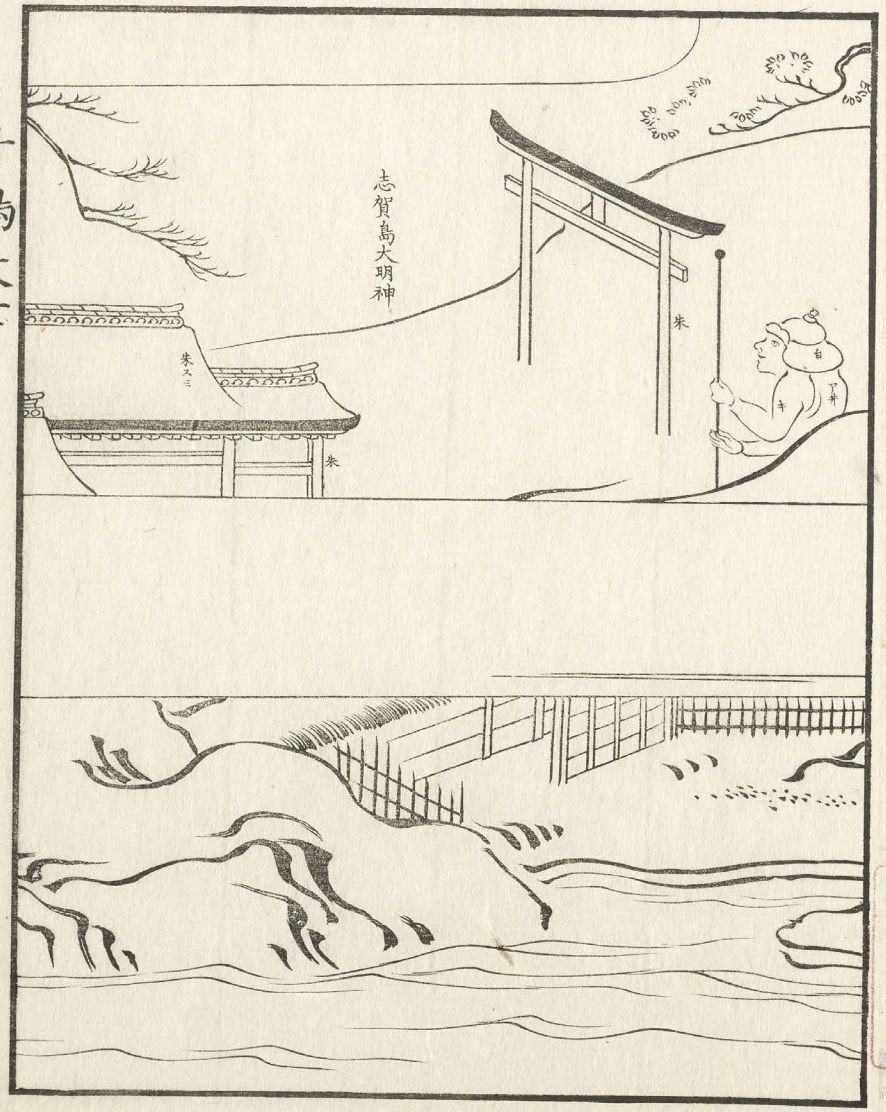
中篤尚堂安





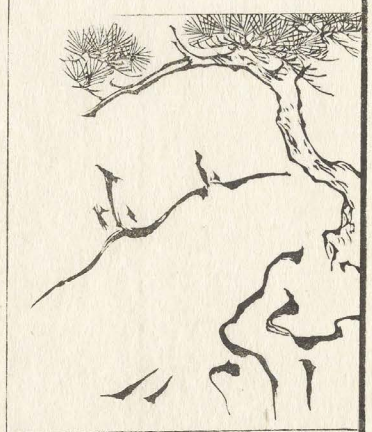
中篤尚堂金

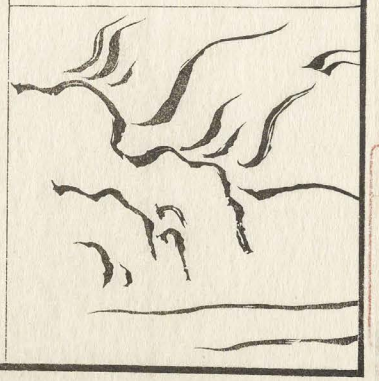




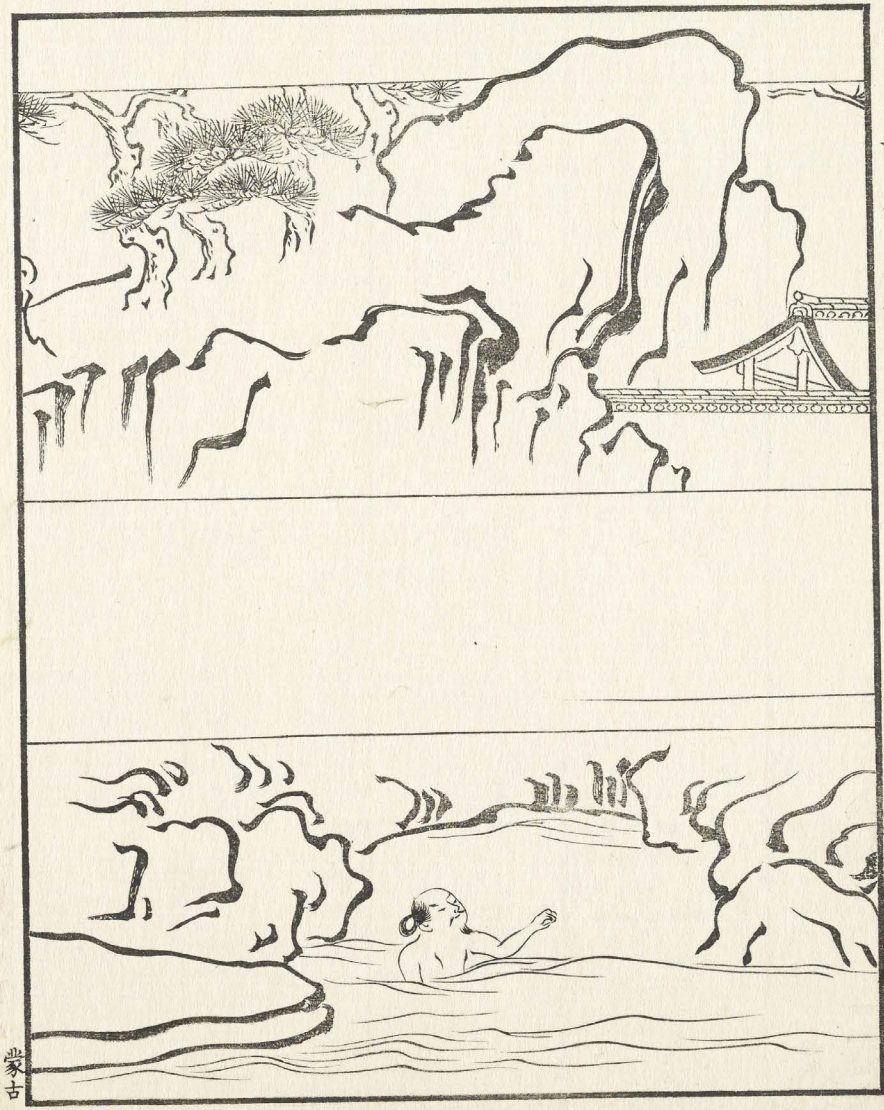
中篤尚堂安







㊥篤尚堂藏



陣ふをしきて合戦をいどみしにそのころをかみの
事むさなのてのり甲信濃國住家人あらさわ
いや二郎ときるいさあるつ乃をいとさ婦の三百のて
乃和田やに宮ちのもとにうけやまのかくあるふ
もんさの宮ちさるんか称ふたち将をそうへつ
新勢(しんせい)をおひくみちゆえをまてなさまる強(つよ)
をしませのうつむかやまちもち将も
水手ろをすてをたちしほちちうくのう
うたちさしものをを用ひむまの財(ざい)を長なひ
ふその把さそをかるものもいきのまつさくまく

岩家古

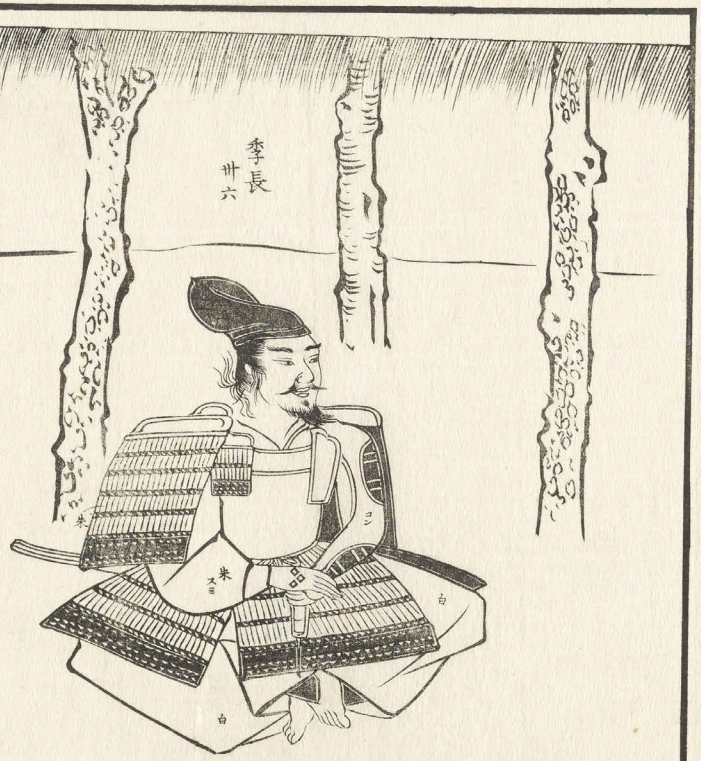
守護乃宮さまいさく當國一番ふひきつきふ
ちく康鳴(こうめい)よさつもてての把日ゐ已刻ゟ合戦を
仕まし犯数年(のふ)たる郎なるる郎従藤原太
ますけういまてをかみのもむまこ正ゐちゐ将
證人ふ豊後國住家人をつめ乃無法次郎をき
川出仏余道戒うちふの他人まゐ盛宗(もりむね)乃はての人
まままむの三郎盛清をてけさもよく国府
ひきつけよちく

中 篤尚堂 瀧



中篤尚堂安





中篤尚堂安





蒙古

すきもの御事
乃人ともれ〻ん一申
いさよろ
仁る人百十余人なるとい〻ともちさて
御下文を給ると御むまを給る事
季長一人もろなると弓箭（きうせん）の面目をなと
事なよこ〻ろ志こ〻ろ志
ゑゑい
きをす　もいのそ〻このめ
よろむへさや向後
文〻
君の御大事あらむときハ軍をふさきをかうへき也

中 鷲尚堂 瀧

おくれをけふのことくす（新

永仁元年二月九日

一関東へまいりて御むさうのいきをよ

年五月廿三日

佐大明神あらはれ

いてたまひ

ふまいるもも

もつて

給てひとのさくらのえさふ御あてをこのまくれさ

をたゝし御事　関東海東おなしもんたちなりよりて

蒙古

海東を給るへきにはこれによ

ひとのさくらよ御あも

よとくをひきゆくふ

海東よ入部たくさうをんのとくをう

ふさくらに八御あをけるところれをもるうよゆくハ

同十一月一日御くらふくを給をうあくる正月廿日

をけさふ仍く同

ととをかゑく御志

に御あをける我ふ

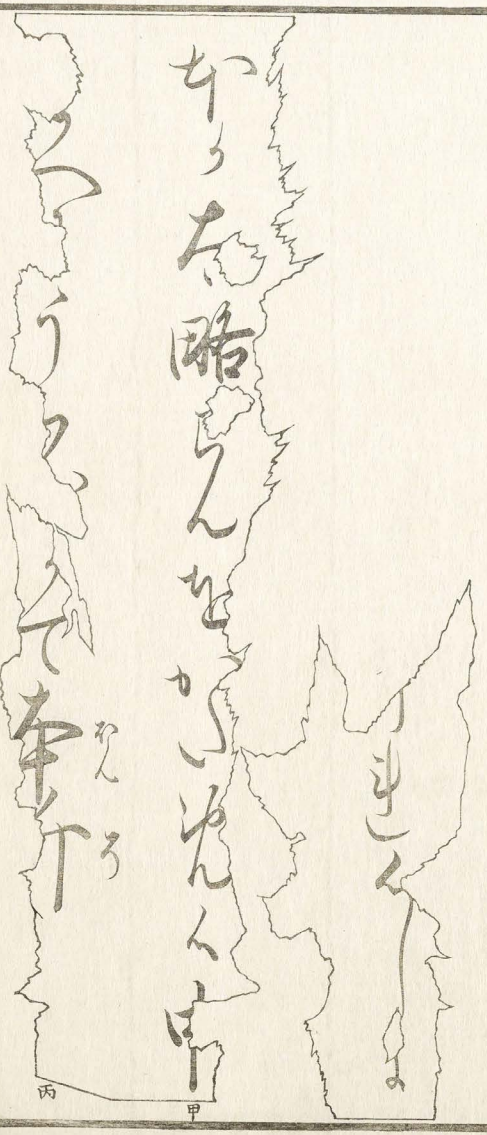
海東ふ入部

㊥篤尚堂㊦

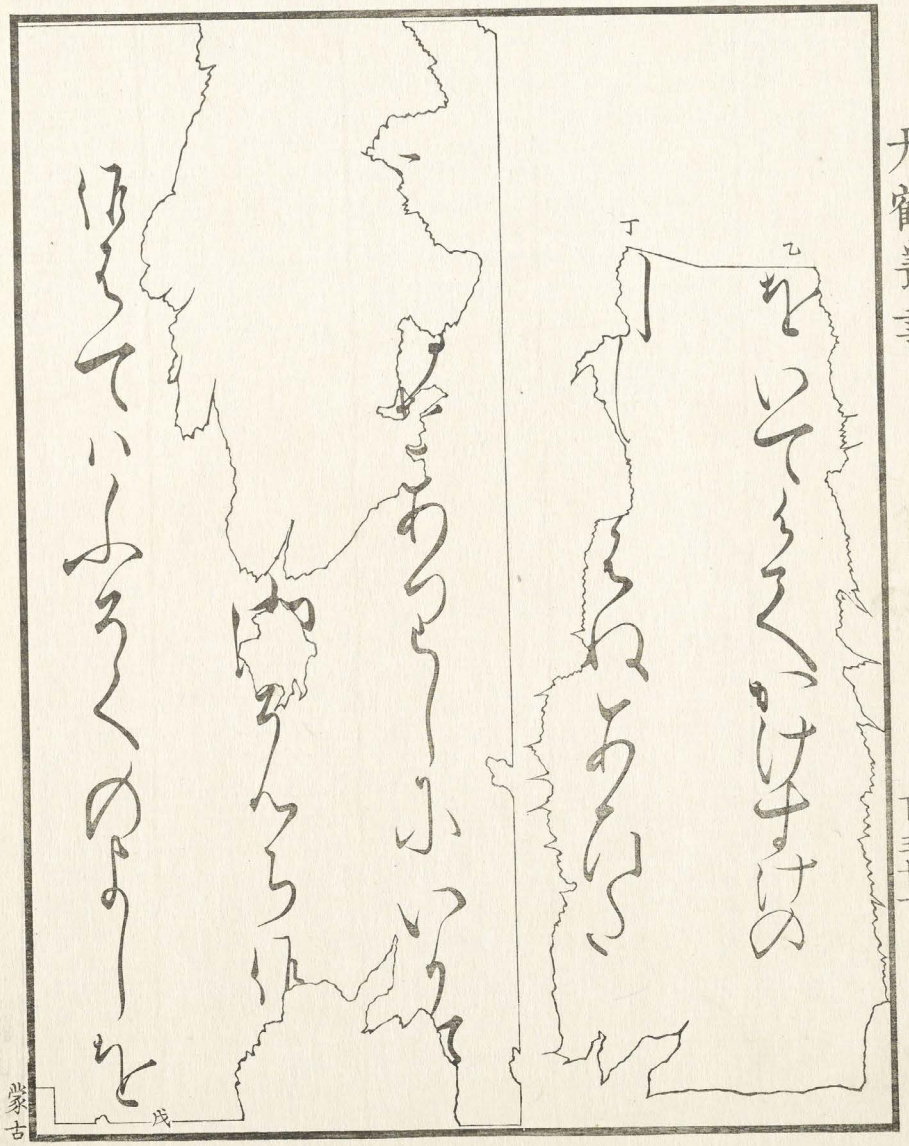
てうちおおもいあたるふふて
神乃めてたき御事を申さんよつほこをも
ふしまるらまて

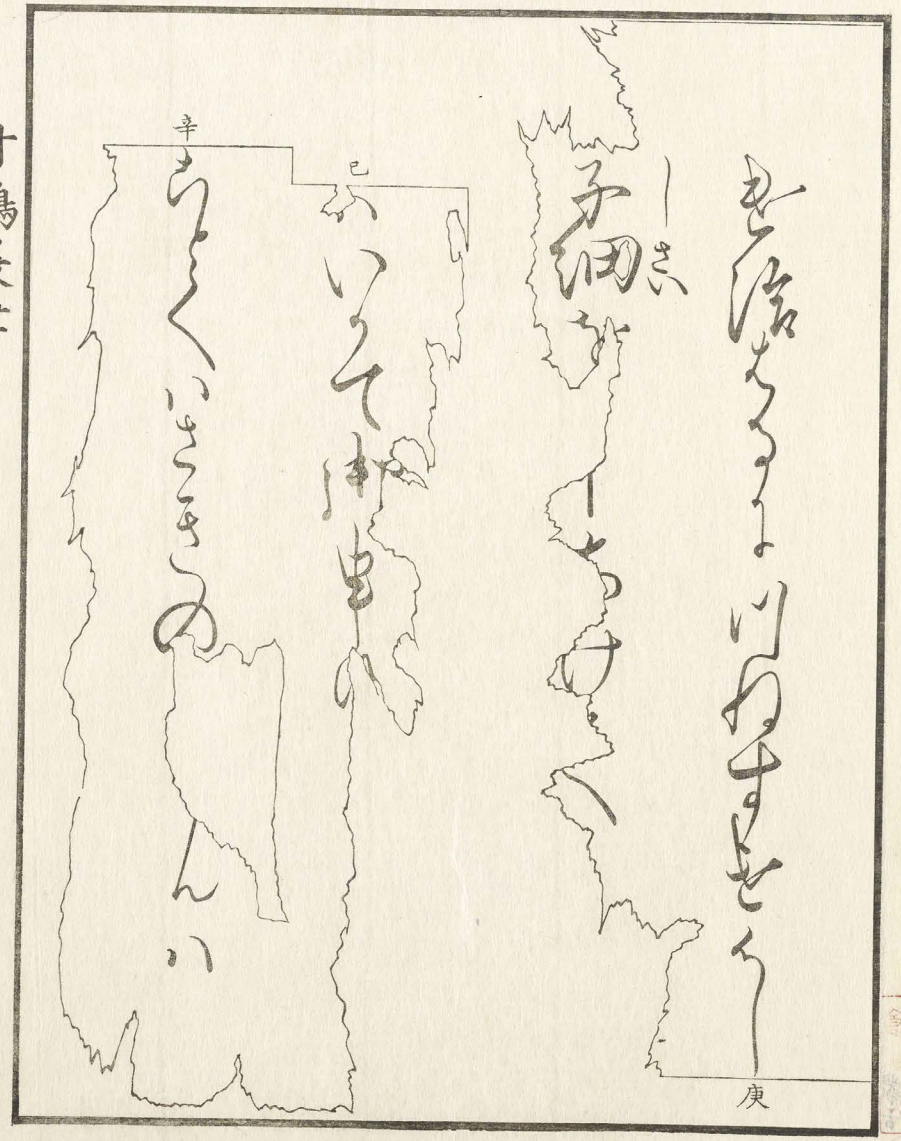
永仁元年 歳次 癸巳 二月九日

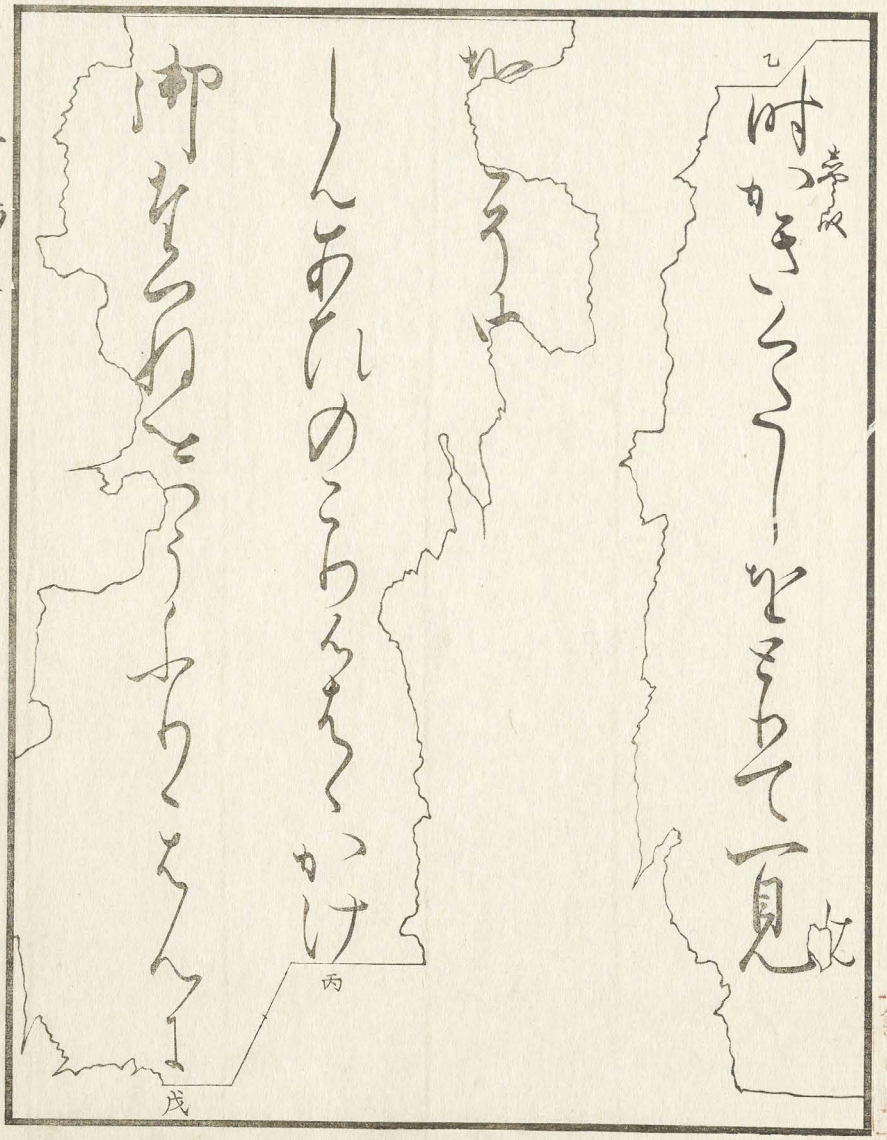
季長真蹟



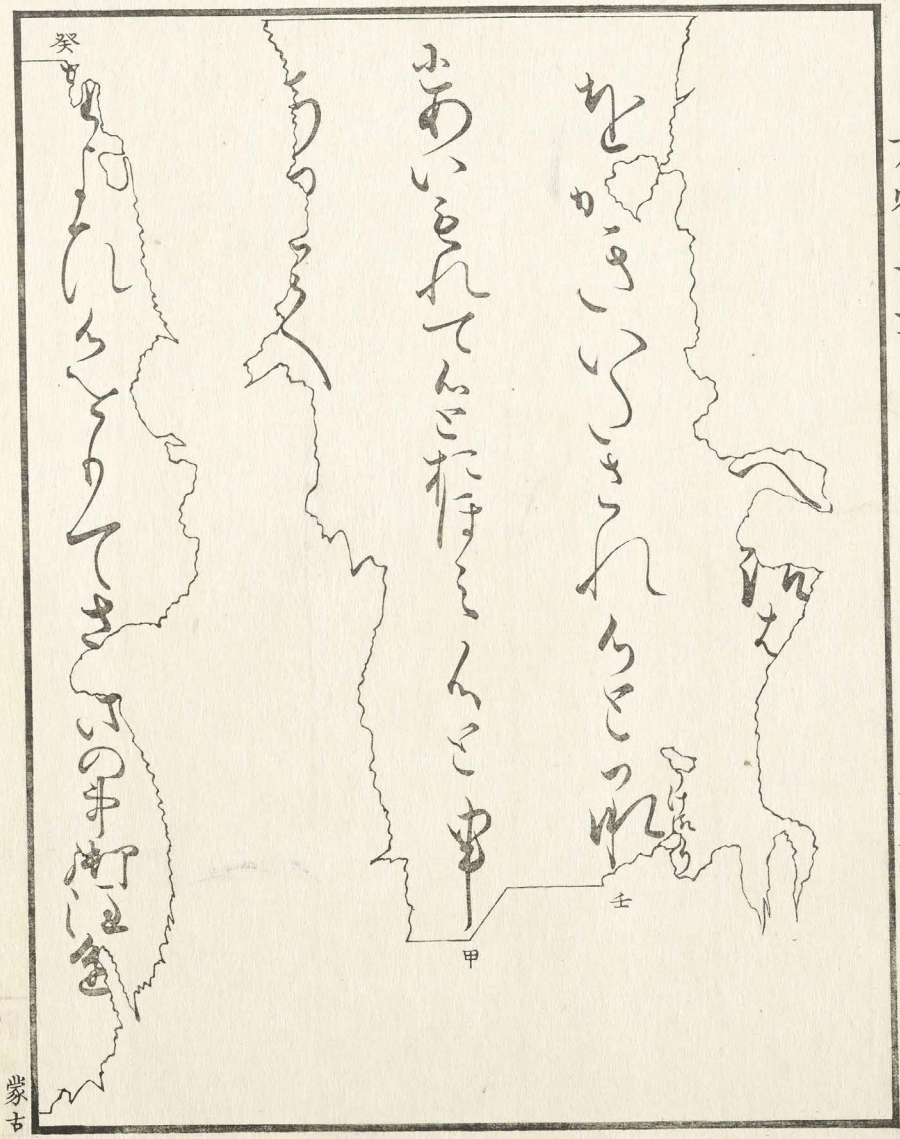
飯田蔵書

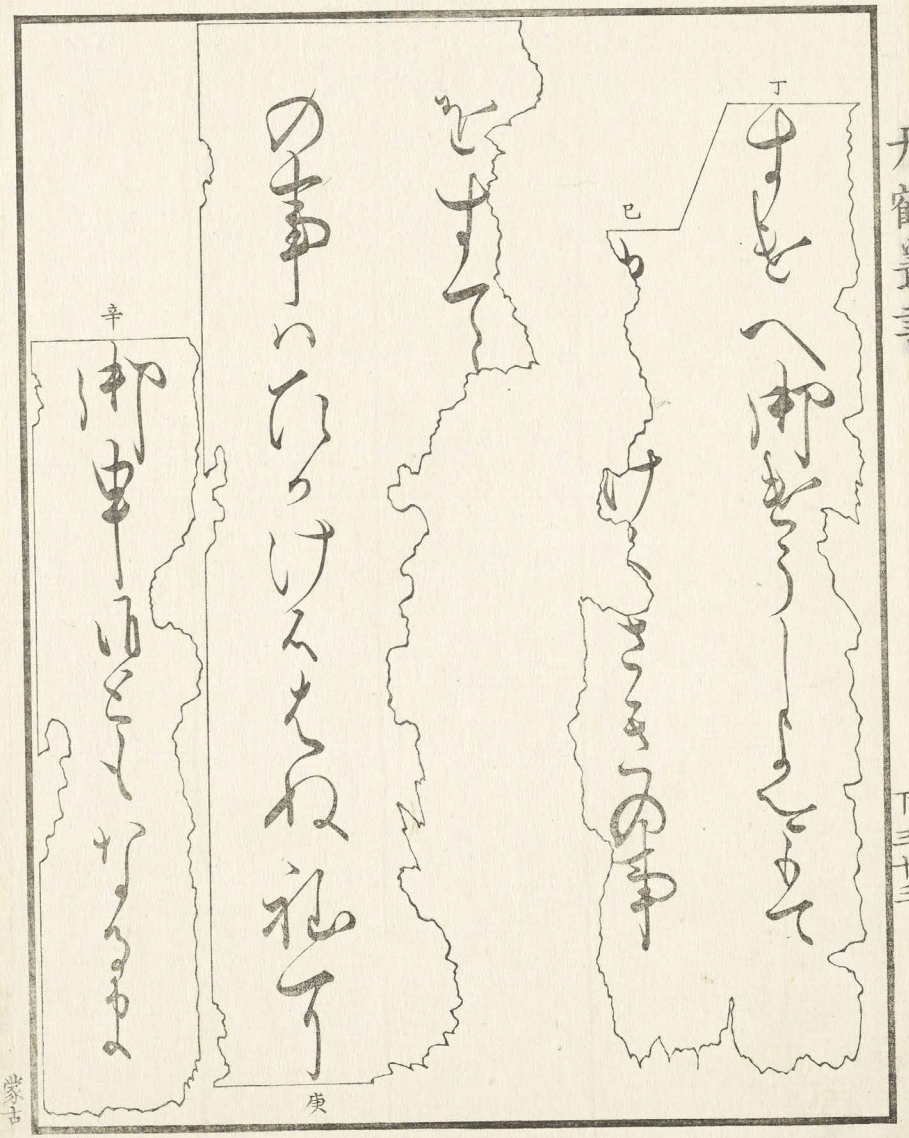

乙
丁
蒙古
戊

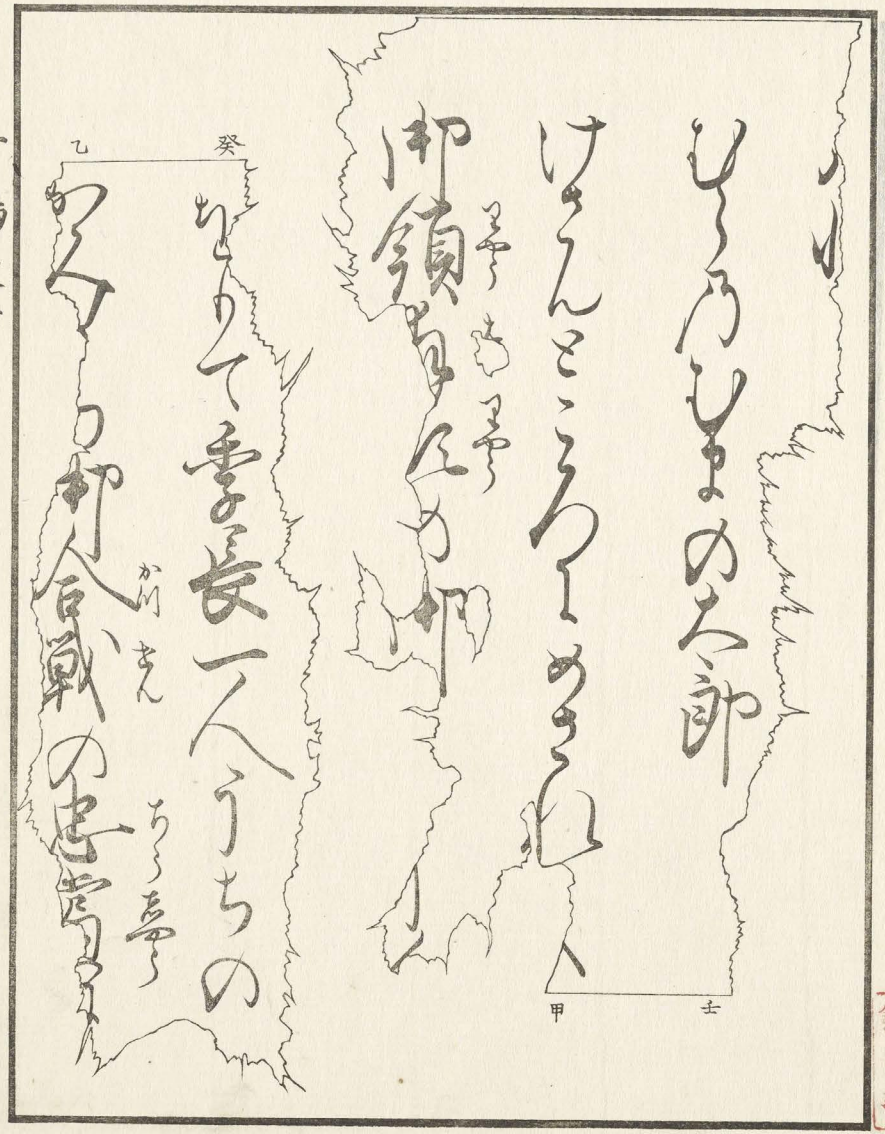

庚
己
辛

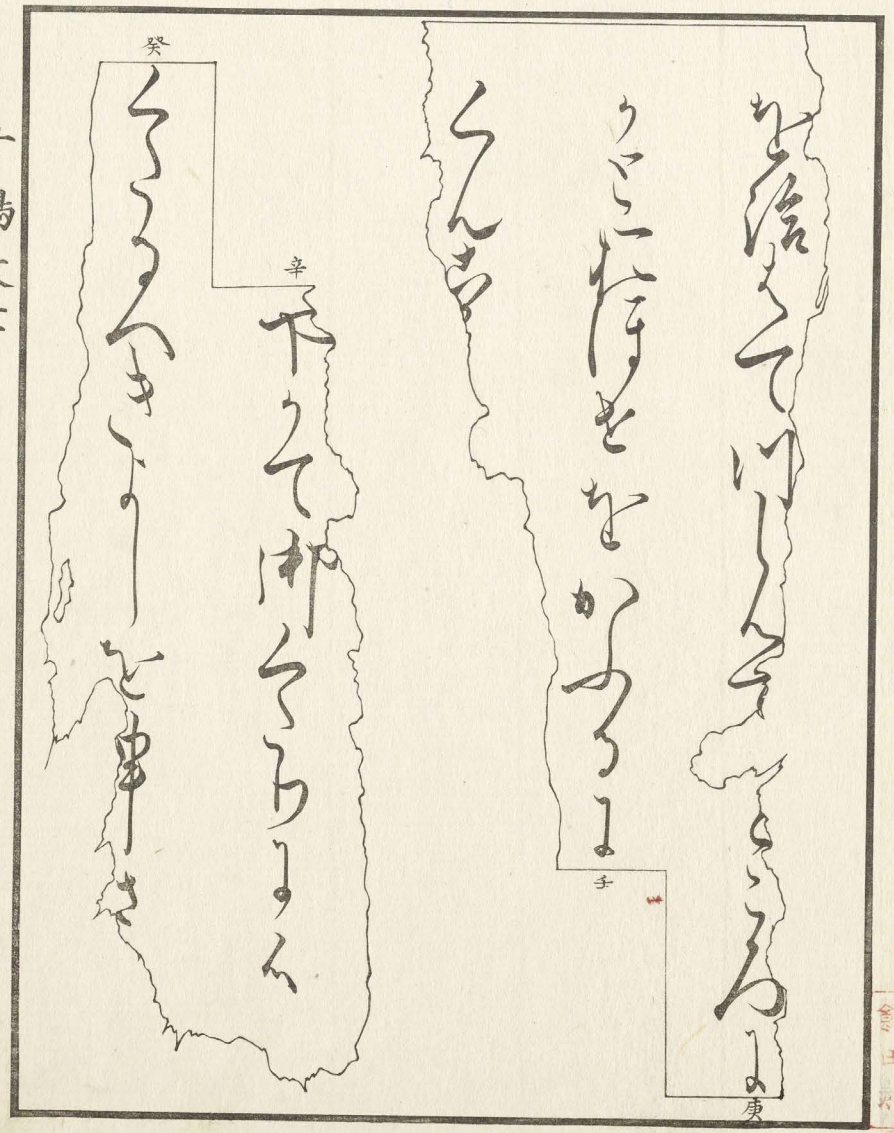


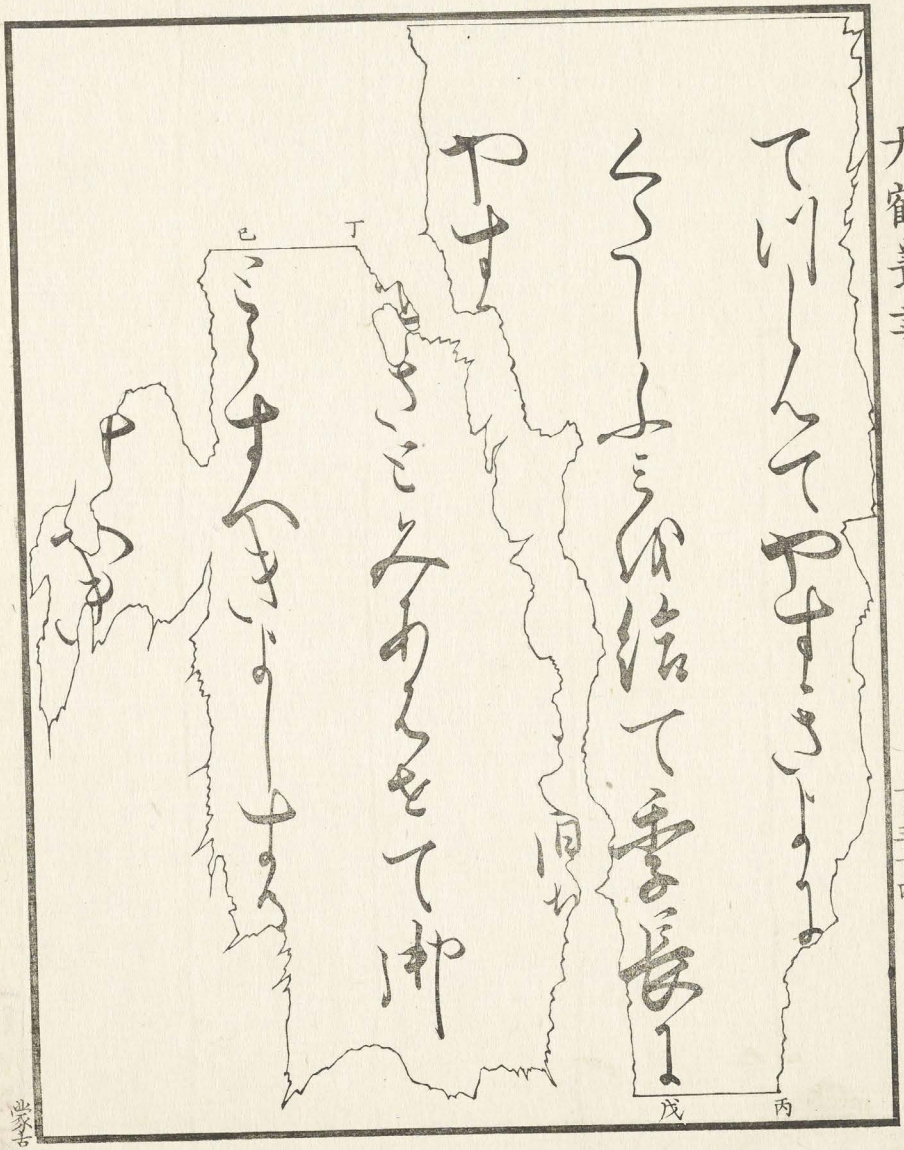
紀昀刻

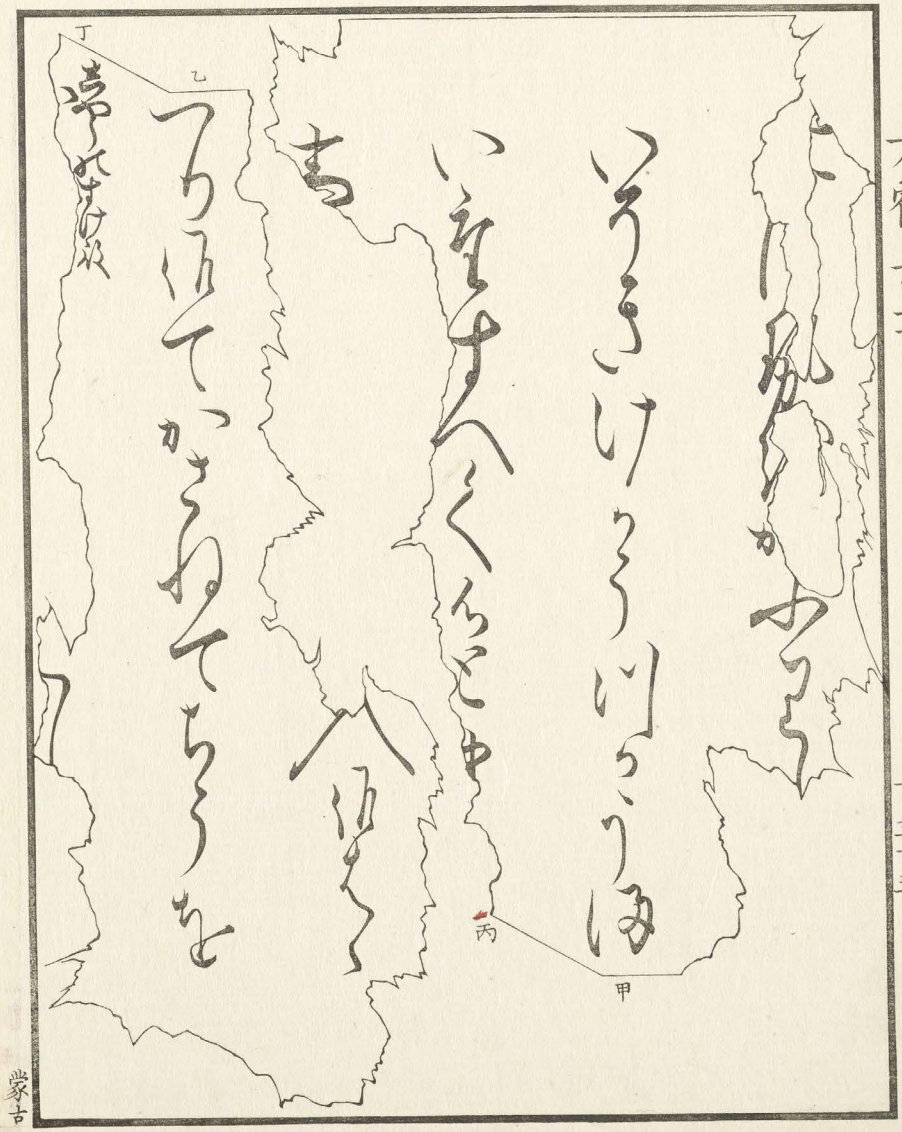


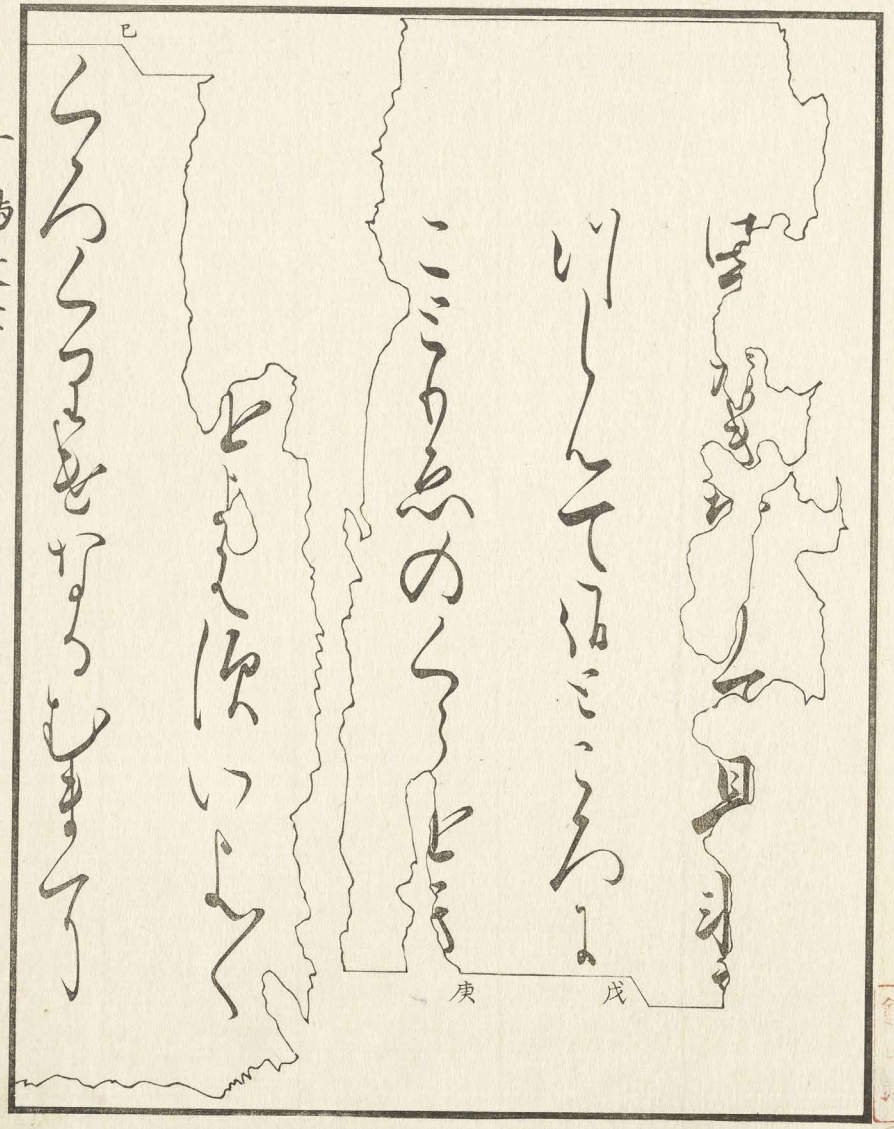

丁
己
庚
辛


癸
乙
甲
壬

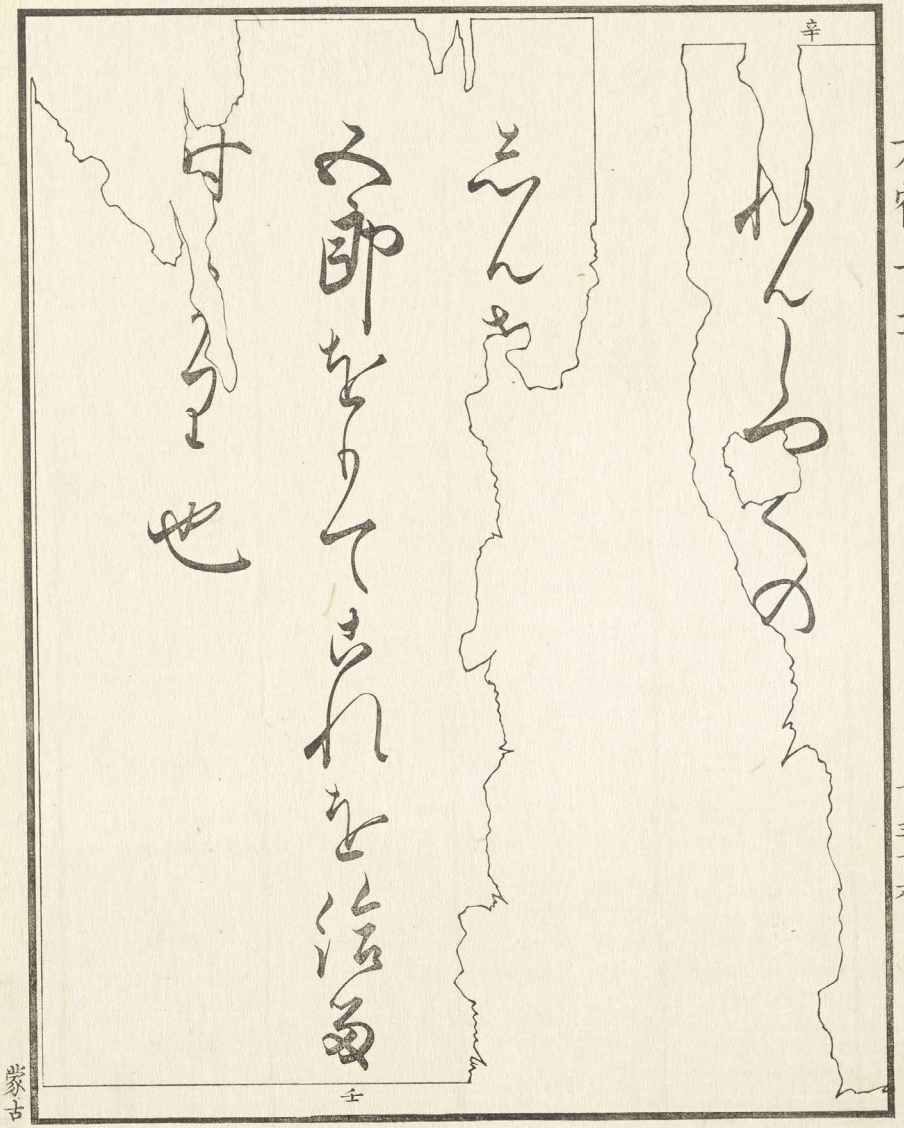





甲
丙
乙
丁
蒙古


己
戊
庚

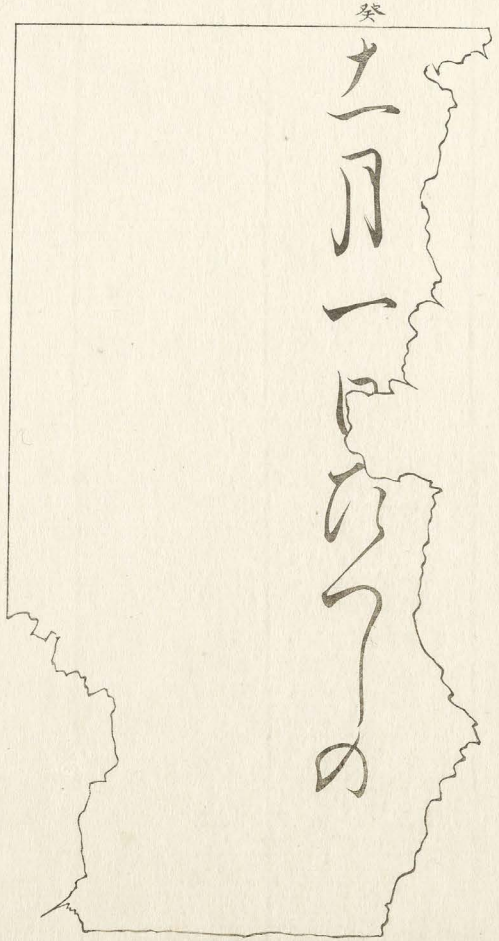
辛



壬

蒙古

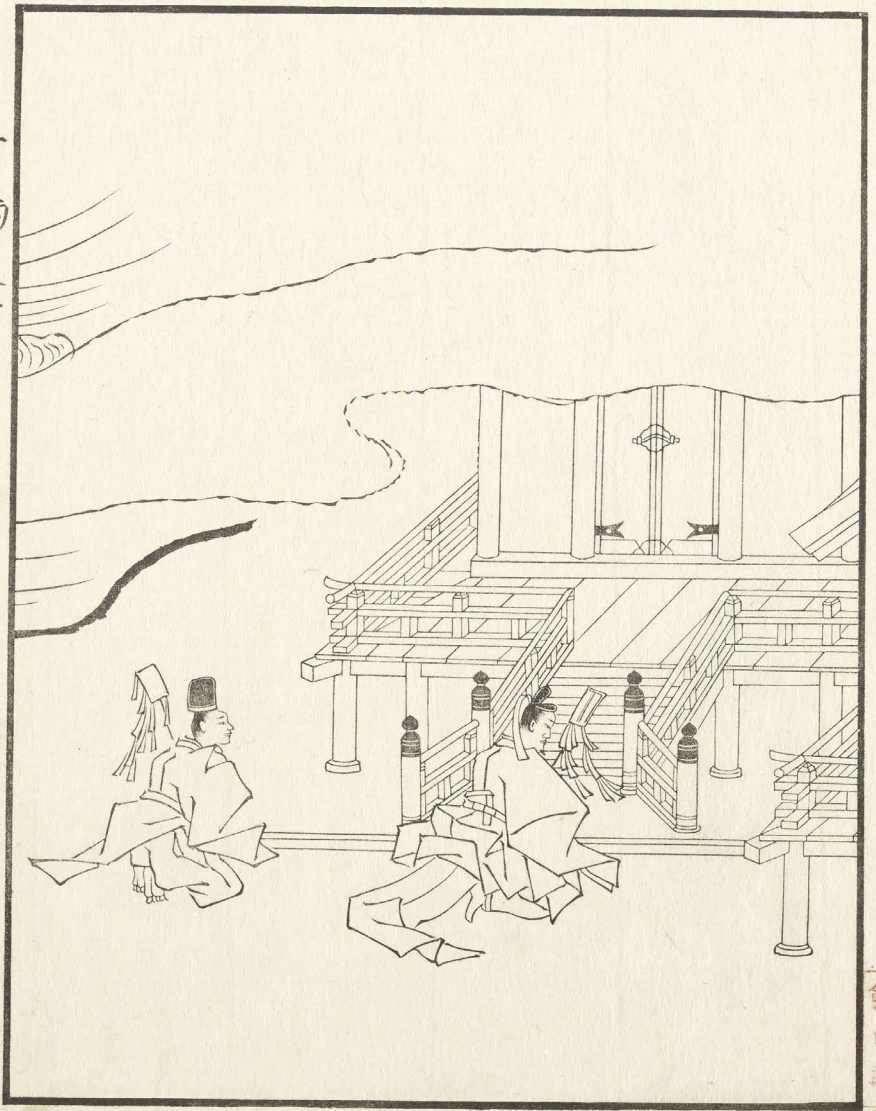
癸



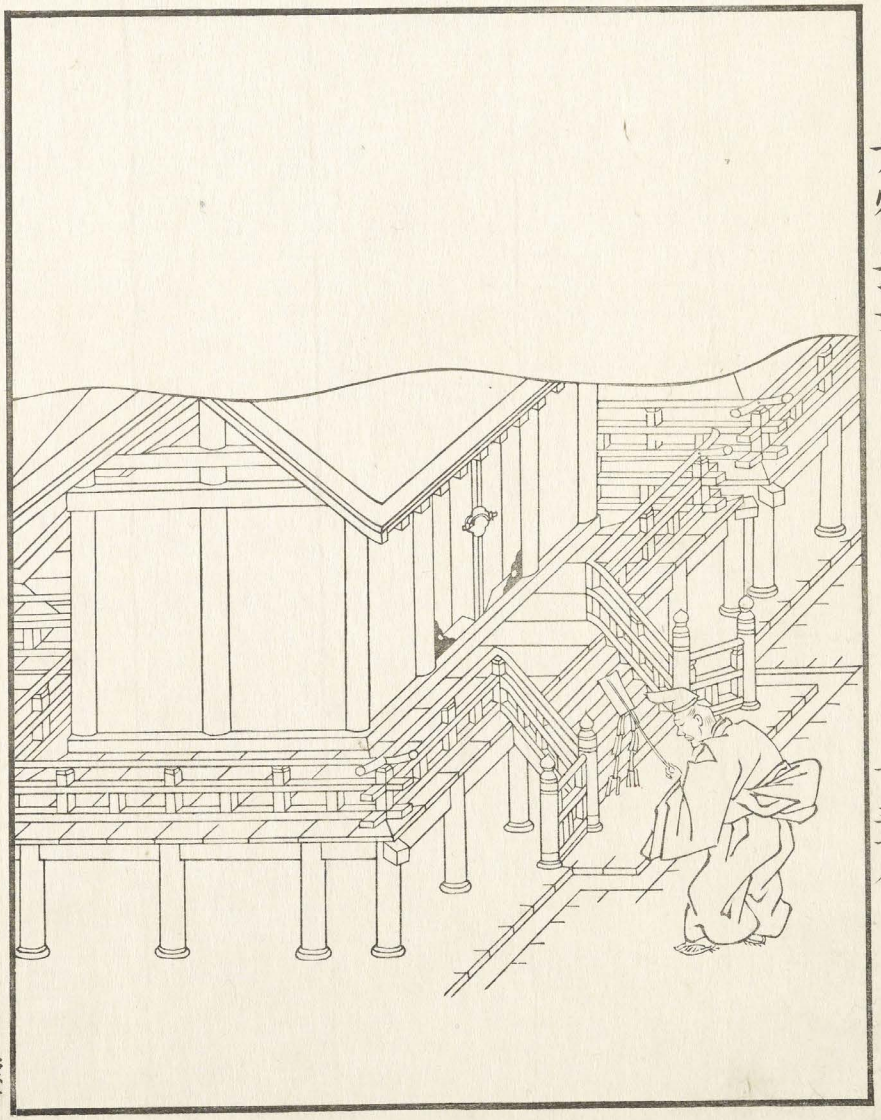
弘安の役大元の兵船七万余艘万石の軍を大海
に浮べ三百七十まんきのせいとも号し日本乃津
をしよせてうをとらんとなり日本の兵ふをさのも
くりきたるとも和國一朋乃法社の異神
へ勅使をさしてうをいをさけられハ　伊勢乃法
ものみや春日の神その　神名帳乃せきる三千
七百五十余社乃神のちからてんをたすけ
とき給ふものふこと多きこと係り大風ふき馬をお

ほひいのちなきものく七万そうの船乃ちり
ちりの兵万将軍一人逃るもなきまでに風ふき乃つてちふ
きつくる呂洞濱とふ仙人あらハれ人力のをよふ
ところあらハいかき本國へかへるものと万将軍乃
志をうけ容体

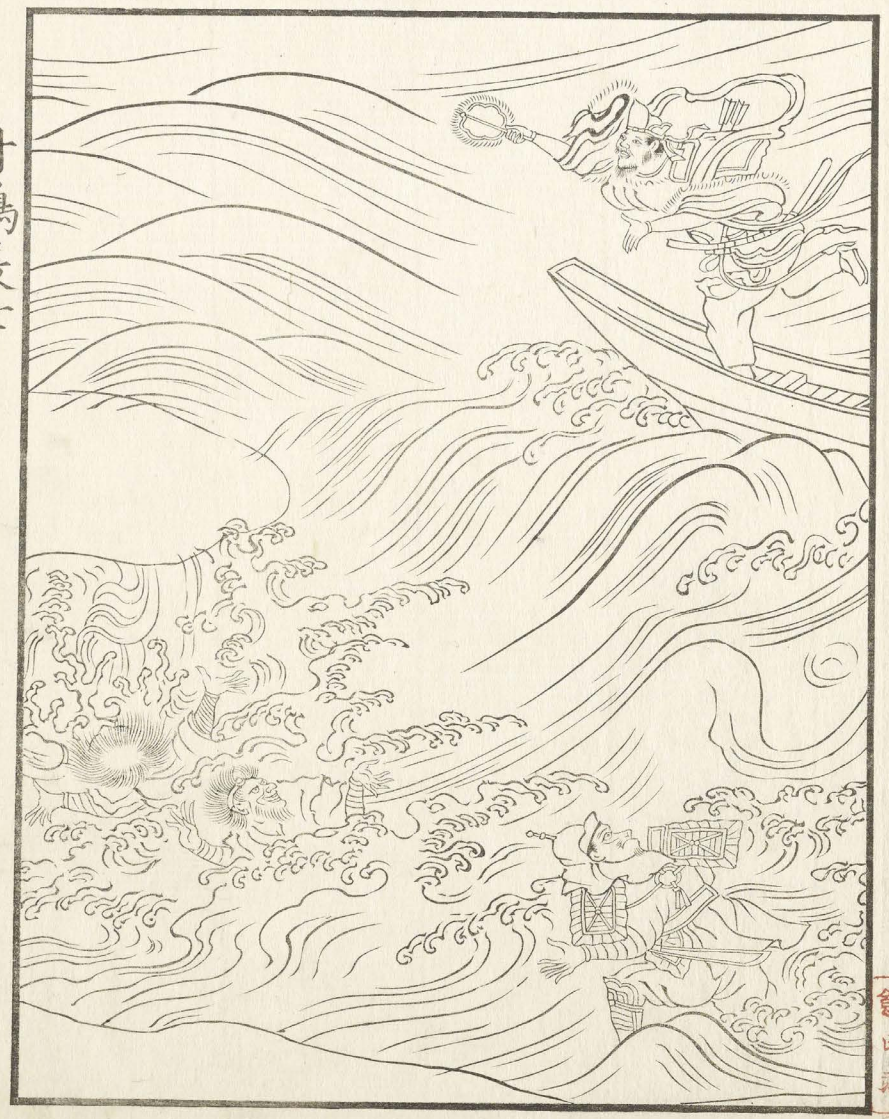
飯田町 3



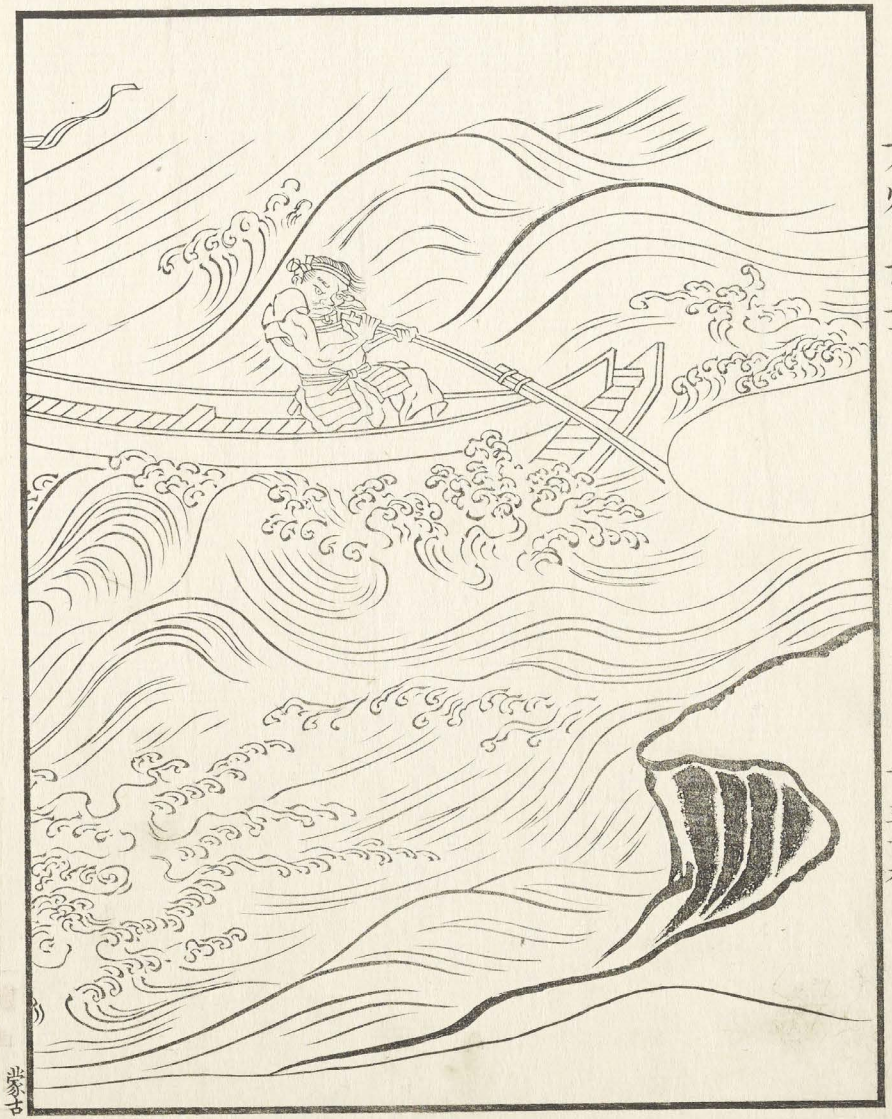
飯田利興

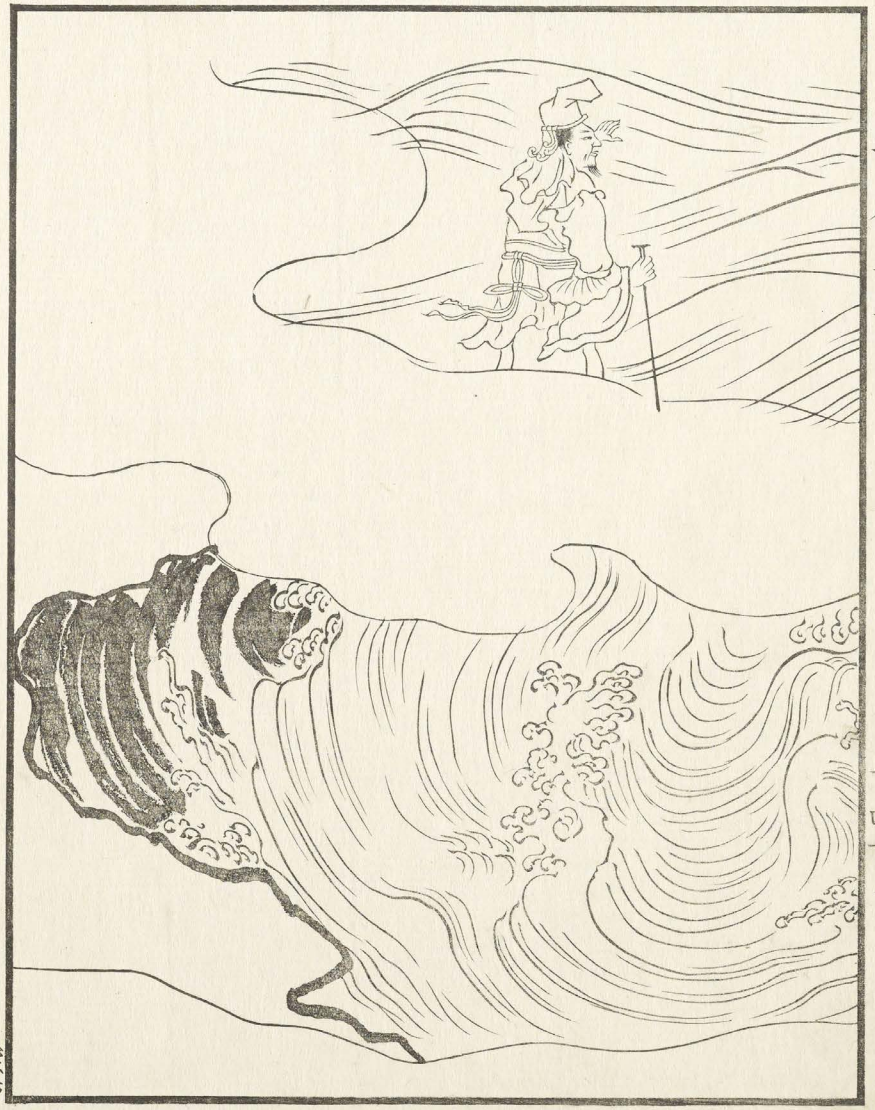


崇古



飯田藏書





蒙古